公立大学法人 福井県立大学
Fukui Prefectural University

ファカルティ・ディベロップメント
報 告 書 2009

2010 年 3 月

教育学習支援チーム

はじめに

福井県立大学は，2007 年 4 月から公立大学法人 福井県立大学として新しい第 1 歩を踏み出しました．それに伴い，教務委員会 FD 部会は，教育学習支援チームとして活動していくことになりました．本チームは，FD 活動の推進と教育の情報化活動の具体的な運営を期待されて発足したものです．本学における FD 活動は，2003 年から始まり今年で 7 年目を迎えようとしております．FD は，学生による授業評価からはじまり，研修会への参加，外部からの講師による講演会，また，教員それぞれの授業の公開等々，さまざまな取り組みに発展してまいりました．これらの事業は教員の皆様の教育に対する熱意の賜物と思っております．

特に今年度の本チーム会議では，各学期の授業終了時に集中的に行われる授業評価の学生への負担の軽減を目指した授業評価項目の精査が検討課題でした．その結果，学生による授業評価項目を統計学的に分析し，21 項目から 8 項目に縮小しても目的の達成には問題ないことを実証することができました．これによって 1 つの目的は達成されたと考えております．学生による授業評価は，実施することに意味があるのではなく，評価を教育に活かすことに意味があります．評価結果にはさまざまな要素が含まれています．例えば，100 名を越す大教室での授業と少人数の 10 名の授業では，異なります．また，授業科目の性格によっても違います．視覚や聴覚・触覚からわかったと感じられる授業もあるでしょう．しかし，学生が深く思考することを目的にする授業もあるでしょう．実習や実験のように学生自身が活動しながら学ぶ授業もあるでしょう．このように異なる性格の授業を評価し，一律に数値で比較することは根本的に不可能であると思います．すなわち，教員一人一人の授業評価の結果は，当該教員が自分の次の教育活動に活かすことが最も相応しい活用方法と考えます．授業評価は教員と学生が一体となって，はじめて可能になります．

教員は学生による授業評価の結果を受けて，ウェブサイトにコメントを記載してまいりましたが，学生との有効な呼応手段になっていないという評価から，今後シラバスに反映できないかといった議論に発展している段階です．

学内における公開授業の是非や方法を検討した結果，全部局で実施することを決定いたしました．公開の方法は常時公開するもの，公開授業を前もって提示し，参加を呼びかけるものなど，部局の特徴に合わせて行われました．また，公開する授業担当教員や参加教員への呼びかけの方法も工夫されました．今年度の授業公開の結果では，参加する教員が少ない，関心や熱意のある教員に限られる等の問題点も明らかにされました．一方，参加した教員は「大変参考になった」等，授業公開の効果を認識されているといった状況でした．今後は一人ひとりの教員が自分の授業評価の結果と連動させて主体的に参加してくださることを願っております．

最後に，本チームの FD 事業は，学生の協力なくして成り立ちません．学生の協力に対して感謝の意を表すると同時に，FD 事業に参加いただきました教員の皆様と FD 事業の運営

を行っていただきました本田和正教授，チームの先生方に感謝いたします．

2010 年 3 月　教育学習支援チーム代表　交野　好子

目次

はじめに ----------i

1. 活動概要 ----------1

1.1 委員の構成 ----------1

1.2 会議録 ----------1

1.3 ウェブサイト ----------8

1.4 FD 事業経費 ----------9

1.5 事業の実施状況 ----------10

1.5.1 授業評価 ----------10

1.5.2 授業公開 ----------21

1.5.3 FD 研修 ----------22

2. 各部局の FD 活動 ----------23

2.1 経済学部 ----------23

2.1.1 授業公開 ----------23

2.1.2 教員向アンケート ----------27

2.2 生物資源学部 ---------- 30

2.3 海洋生物資源学部 ----------33

2.4 看護福祉学部 ----------38

2.4.1 授業公開 ----------38

2.4.2 FD 研修 ----------45

2.5 学術教養センター ----------50

2.5.1 授業公開 ----------50

2.5.2 FD 研修 ----------67

2.5.3 総括 ----------74

3. 点検と課題 ----------75

3.1 授業評価 ----------75

3.2 授業公開と研修 ----------80

おわりに ----------82

1. 活動概要

1.1 委員の構成

チームの規定（規定第 12 号）により教育担当理事をチーム長とし，メンバーを理事が選考する．2009 年度のメンバーは，以下の 11 名の教員と 5 名の職員である．

2009 年度チーム委員名簿

氏　名	所　属	職	役　割
交　野　好　子	理事（教育担当）	副学長	チーム長
新　宮　　晋	経済学部	准教授	委員
飛　田　正　之	経済学部	准教授	委員
木　元　　久	生物資源学部	准教授	委員
黒　川　洋　一	生物資源学部	講師	委員
大　竹　臣　哉	海洋生物資源学部	教授	委員
本　田　和　正	看護福祉学部	教授	チームリーダー
塚　本　利　幸	看護福祉学部	准教授	委員
菊　沢　正　裕	学術教養センター	教授	委員
山　川　　修	学術教養センター	教授	チームリーダー
大　武　　博	学術教養センター	教授	委員
秦　　邦　夫	教育・学生支援部	部長	事務局
田　中　典　子	教育推進課	課長代理	事務局
大　野　史　博	情報ネットワーク管理室	主任	事務局
川　田　修　二	教育推進課	主任	事務局（福井 C）
吉　田　美　佳	企画サービス室（小浜Ｃ）	企画主査	事務局（小浜 C）

1.2 会議録

■ 第 1 回会議録

日時　平成 21 年４月２０日（月）１４：４０ – １６：１０

場所　福井キャンパス管理棟特別会議室，小浜キャンパス TV 会議室

出席　大竹，交野，菊沢，木元，黒川，新宮，飛田，本田，山川，事務局（大野，川田，秦，吉田）

欠席　大武，塚本，事務局（田中）

チーム員紹介

チーム員の交代があったので，チーム員の自己紹介を行った．FD 事業のチームリーダーとして菊沢教授の後任に本田が交野副学長から指名され，承認された．教育の情報化事業のチームリーダーには，引き続き山川教授が指名され，承認された．

ＦＤ事業について

① 2008 年度事業のまとめ

資料に基づいて，交野副学長より説明された.

② 2009 年度事業について

1　予算

昨年並みの予算がついた旨が報告された（シーリングなし）.

2　2009 年度授業評価について

（1）2009 年度も継続して実施することとなった.

・2008 年度の問題点と改善意見

学生による回収と，回収締め切りを徹底し，これが守られない場合は受け付けない事が確認された．授業評価方法の再検討が必要（経費，回答者の負担，質問数など）であることが確認された.

・前期実施日程の決定

例年どおりとする．実施期間は原則として 7 月 8 日（水）から 7 月２２（木）とし，オムニバス授業やそのほかの理由でこの期間に実施できない場合はこれよりも早く実施してもらうことが確認された（この場合は各教官の責任で用紙を事務局から受け取って準備してもらう）.

（2）2009 年度以降への対応

授業評価方法の再検討（特に設問数）については ML で議論し，第二回会議までにまとめることとする．2010 年度の実施を目指すこととする.

3　2009 年度授業公開について

（1）2008 年度の問題点と改善意見

・経済学部

授業公開を実施する教官も参加する教官も少ない．相互に関連のある授業を指名して同じ専門分野の教官の間で授業公開を実施することを提案したいと考えている.

・生物資源学部

参加教員がいつも同じである．強制的に実施するのが良いかとも考えている.

・海洋生物資源学部

参加する教官と全く参加しない教官がいる.

・看護福祉学部

看護学科は参加教官数がそれほど多くない．実習等で外部に出ている教官が多く，参加したくても参加できない場合が多い．社会福祉学科では特定の授業について随時公開したが参加者なしであった.

・学教センター

全科目随時公開とし，前期は語学および情報科目で参観があったが，後期は 1 件も無かった．随時公開方式と経済学部方式を取り入れていきたい.

（2）2009 年度の公開計画

各部局毎に方針を決定して，実施することとする.

4　2009 年度 FD 研修について

・交野副学長より今年度 6 月にキャリア教育に関する講演会を実施予定であり，FD 研修会の一つとして承認して欲しいとの提案があり，承認された.

・毎年 3 月下旬に京都大学高等教育研究開発推進センターが主催する「大学教育研究フォーラム」に各学科より 1 名程度参加してもらうことが菊沢先生より提案され，各学科で参加者の人選をしてもらうこととした.

・各部局における FD 研修企画（外部講師招聘が主）を 6 月末日までに提出してもらい，予算計画を立てることとした.

教育の情報化事業について

・県内 6 大学で発足した F-レックス（福井県学習コミュニティ推進協議会）の SNS が稼働を開始し，本学教官，学生も使用できる環境が整ってきており，使用に必要な各教官のパスワードを教育学習支援チーム員を通して各部局の教官に配布したいとの提案が山川教授からなされた.

・本学の FD 研修等も F-レックスに積極的に乗せていくことが了承された.

次回チーム会議開催予定

第 2 回チーム会議は 7 月に実施することとなった.

■ 第２回会議録

日時　平成 21 年7月２９日（水）１３：００ – １５：００

場所　福井 キャンパス管理棟特別会議室，小浜キャンパス TV 会議室

出席 交野，新宮，黒川，大竹，本田，塚本，大武，菊沢，山川，事務局（秦，田中，川田）

欠席 飛田，木元，事務局（大野，吉田）

1. ＦＤ事業について

① 2009 年度前期事業経過について

1）授業公開

・各部局より前期授業公開の経過と問題点が報告され，以下の共通の問題点が指摘された.

参観者が少ない.

いつも同じメンバーである.

公開の募集をしても応募がない.

・今後の授業公開の方法について以下の議論がされた.

学教センターでは新任の先生が積極的に参観を希望されたことがきっかけとなって参観科目数の増大につながったので，きっかけをうまく利用することが重要である.

教育内容の整合性やカリキュラム自体の検討を行う手段の一つとして，同じ専門分野の授業科目間で授業公開を利用していくという方向性も重要である.

2）授業評価

事務局より，期間外実施の科目を除いて評価結果が順調に集まっているとの報告がされた．反省点として，実施の締め切りが早すぎた旨が報告された．

3）FD 研修

・前期の FD 研修の状況について，学外研修２件，学内研修３件（１件は学外講師招聘）があったことが本田より報告された．

・山川先生より，導入ゼミの改善に関するセミナーを９月に実施する計画であることが報告された．

・交野副学長より，FD 研修費を伴う FD 研修計画（特に学外講師招聘）を各部局より出して欲しい旨の要請があった．

② 授業公開案内の学外公開について

授業公開は学内からの参観のみを対象として実施されているが，FD 事業に関する情報は授業評価結果を除いて学外に公開されている．学外からの参観は受け入れない方針であることをチームで確認し，授業公開は学内のみを対象としている旨をホームページの FD サイトに明記することとした．

③ 授業評価アンケートの改定案について

授業評価アンケートの改訂案について議論し，以下の点を修正および確認した後に各教授会で審議してもらうこととした．

修正点（以下の設問番号は V.3 の番号である）

・回答のゼロ（該当なし）を削除する．

・Q2 の自由記述欄は削除し，Q7 にこの項目を加える．

・Q3 は削除し，Q7 の自由記述項目に加える．

・Q5 は“この授業の分野への関心は高まりましたか？”に改める．

・Q7は“授業を受けた上での感想（先生の授業への熱意，方法，教材，授業内容はシラバスに即していたか，教室環境など）を良かった点あるいは不備な点について自由に書いてください．”に改める．

・Q7 および Q9 の自由記述欄を大きくする．

④その他

交野副学長より，学生生活実態調査の質問項目中の学生の学習に関するアンケートは必要かどうかについて学習支援チームの意見が欲しいとの要望があった．授業評価アンケートと学生生活実態調査中の学習に関する設問がは意味がちがうこと，また，学生生活実態調査の中で学習の程度と他の調査項目との関連を分析する必要が出てくることもあるるので，学習に関する設問は残しておいた方が良いという意見がチームより出された．

２．その他

・ホームページ上のＦＤサイトの管理について

今年度中は引き続き，菊沢先生に管理していただくこととした．大学全体の HP 管理に関する委員会が立ち上がっているので，その枠組みの中に使いやすい形で FD サイトを組み込んでもらうよう要望することとした．

・Ｆレックスの FD チーム員として, 本田に加えて新宮先生にも入ってもらうこととした.
・次回チーム会議は９月に開催することとした.

3. 追記事項

授業評価アンケートの改訂について，会議終了後の確認作業において以下の追加訂正を行った.

（１）Q1の選択肢

「意欲的でなかった」を「意欲的に取り組まなかった」に変更した.

（２）表紙　本文2行目

「授業について，調査ご協力下さい.」を「授業についての調査にご協力下さい.」に変更した.

（３）表紙本文下から２行目の過去の集計結果のアドレス

http://www.s.fpu.ac.jp/fd/fpuinfo.html を http://www.s.fpu.ac.jp/FD/lecinq.html　に変更した.

■ 第３回会議録

日時　平成 21 年9月２８日（月）１０：４０ – １２：００
場所　福井 キャンパス管理棟特別会議室，小浜キャンパス TV 会議室
出席 交野，新宮，木元，黒川，本田，大武，菊沢，山川，事務局（秦，田中，川田）
欠席 塚本，飛田，大竹，事務局（大野，吉田）

1. ＦＤ事業について

（１）授業評価について

①前期結果について

資料に基づいて，実施状況および結果が事務局より説明された．授業評価を始めて 6 年目となるが，各部局とも一定の値に収束しつつある状況が認められ，本学全体としての教育力をチェックする意味で今後も続けて行く必要性があることが確認された．経済学部の調査票の回収率が低いことが指摘されたが，これは学部の特性に原因があるものとの推測意見が出された．すなわち経済学部では 4 年間で一定の単位を取れば良いために履修届けを提出しても実際に履修しない率が高いためである.

②授業評価アンケート改訂案について

各部局での審議結果について報告され，海洋生物資源学部以外の部局では特に意見はなく了承された．海洋生物資源学部からは以下の 2 つの意見が提出され，チームとしての対応が議論，決定された.

1) 教員（個人）あてのフィードバックをわかりやすくしてほしい（「授業の平均点」「標準偏差」といった数値および自由意見のみでは，全体としてどのような評価なのか実感できない）.

チームの対応

個人あてに結果を送付する際に，全体の結果が本学 HP 上に up されている旨とその URL を通知し，自身の結果と照らし合わせて判断してもらうようにすることとした.

2) Q2（先生の講義方法）については，質問の意図を学生に適切に伝える（「プロジェクタの使用，学習支援システムの活用」の「仕方」が適切かどうか尋ねる，それらを「使用・活用していることが適切」という誤解を与えない）ため，（敢えて）（　）内は削除した方がよいのではないか.

チームの対応

改訂前のアンケートではこの設問を使用してきており，何ら問題が無かったこと，および，Q2 の括弧内を削除すると実質的に Q5 の設問と区別がなくなって Q2 は必要なくなると考えられるので，括弧内は残すこととした．ただし，“学習支援システム[BbLS 等]の活用”の部分は“学習支援システム等の活用”に修正することとした.

③後期および今後について

1)授業評価

例年どおりの時期に現行の授業評価アンケートで実施することとし，実施時期は補講期間を入れて，平成 22 年 1 月 18 日（月）～2 月８日（月）とすることとした．新アンケートによる授業評価は平成２２年度前期から実施することとした.

2)授業公開

前期と同様に各部局チーム員主導で実施することとした.

２．その他

① 学習支援ツールの今後の使用について

本学では BbLS が導入されているが，数年後にライセンス契約更新となり，それ以降継続して使用できるかどうか明確ではない．また，メーカーの都合でソフトの乗り換えを強いられる可能性もある．更に維持費も高額である．現在 F レックス内では学習支援ツールとして moodle が使用されており，本学の教官もそちらに移行していく傾向にある．以上の状況を考慮すると学習支援チームとしても F レックスの moodle を正式に本学の学習支援ツールとして支援する体制を構築していく方向性を明確にすべきではないかとの提案がされた．とりあえず，BbLS から moodle に移行することについて各部局の使用者の意見（移行すると不都合な点等）を各チーム員が聴取することとした.

② Ｆレックスの教材作成サポートの件

山川教授より以下の提案があり，了承された.

Ｆレックスで運用中のLMS，SNS，eポートフォリオを利用して学習コミュニティの形成を試みる取組に，学生アルバイト代のサポートを行う予定である．Ｆレックスのシステムで使うコンテンツの作成や調整等に学生アルバイトを使う場合に利用できる．詳細に関しては，Ｆレックス内で検討したのち，教育・学習支援チームを経由して学内に周知を行う.

③ FD報告書

例年どおり作成することとした.

④ 次回会議開催予定

平成 22 年 3 月上旬

■ 第４回会議録

日時　平成22年3月１７日（水）１０：４０ – １２：００

場所　福井キャンパス図書館棟会議室，小浜キャンパス TV 会議室

出席　交野，新宮，飛田，木元，黒川，大竹，本田，塚本，大武，事務局（秦，田中，川田，吉田）

欠席　菊沢，山川，事務局（大野）

1. 2009 年度 FD 事業について

（１）授業評価について

資料に基づいて事務局より実施状況と全体の結果について報告された.

委員より下記の意見が出され，次年度の検討事項とした.

・授業評価に対する教官のコメントの公表についてウェッブサイトだけではなく，より学生に見てもらえる方法で公表すべきではないか.

・ウェッブサイトへのコメント投稿を促進する努力がもっと必要である.

・シラバスに授業評価に対する教官の対応状況を書く欄を設けてはどうか.

・翌年度のシラバス作成に反映できるよう，後期の授業評価の時期あるいは評価結果の返却時期を変更できないか.

（２）授業公開について

各部局より実施状況，反省点，今後の方針等について報告された.

① 経済学部

公開件数，参観者数ともに少なく偏っている．参観者数は少ないが参観した教官からは授業公開が非常に役に立ったとの意見が出ている．チーム員からの依頼による持ちまわり，原則公開等の方策を講じる必要性がある．情報交換的授業公開については今年度はコーデイネートできなかったので，次年度に実施の方向で検討したい.

② 生物資源学部

原則公開としたが, 本年度は授業公開は実施しなかった. 本年度は JABEE 関連で, 生物資源学部にある 4 つの研究領域に属する授業の関係を明確にするフローチャートを完成させることができた.

③ 海洋生物資源学部

チーム員からの依頼により，前後期各１件の授業公開を実施した．参観者は多いが，いつも同じメンバーである．新たな参観メンバーの獲得が今後の課題である.

④看護福祉学部

看護学科

チーム員からの依頼により，前後期各 2 件の授業公開を実施したが，後期の 1 件は参観者ゼロであった．今後の方針は検討中であるが，依然としてチーム員による強い後押しが必要である.

社会福祉学科

前期に随時公開1件, 後期に随時公開と期日を指定した公開を各1件実施したが, 参観者ゼロであった．実習等で学外に出ている教官が多くて参観者の確保が難しい状況である．授業公開者数の増加およびチーム員によるリーダーシップの強化が必要である．

⑤ 学術教養センター

原則，全科目随時公開とし，前期6件および後期1件の授業公開が実施された．参観者が限られている点については，今後の検討課題である．授業公開を実施した教官からは公開が役に立ったという報告がされている．

これらの報告を受けて各委員より授業公開について以下の意見が出され，次年度の検討課題とした．

・授業公開を毎年継続するのではなく年限を決めて実施し，その結果を検討することも必要ではないか．

・授業を公開して，あるいは授業を参観して，授業改善にどのように生かしたかを公表する場をチームが提供してはどうか．

（3）学内外研修について

資料に基づいて，交野チーム長より説明された．

（4）決算報告について

資料に基づいて，事務局より報告された．2009 年度 FD 報告書の印刷は 2010 年度予算での発注になることが報告された．

（5）「ファカルテイデイベロプメント報告書 2009」の作成について

昨年度と同様の書式と分担で作成することとした．各分担の原稿提出期限を 2010 年 4 月 15 日とし，4 月 30 日頃の完成を目標とすることとした．

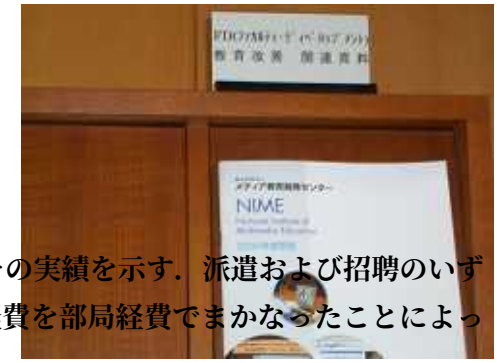
2．学習支援ツールの今後の使用について

第3回会議で議論された学習支援ツールの切り替えの可能性（BbLSからFレックスMoodleへの切り替えの可能性）について各部局の意見を聴取した結果,「Moodleへ切り替える旨は理解し, それに応じるが, Moodleを使い始める際に公式な連絡が欲しかった」, とのコメントが生物資源学部から出された．これらのコメントに関連して，MoodleはFレックスで導入したもので，学内の会議を経て決定されたわけではない旨，また，学内の学習支援ツールとして正式に利用を開始しているのではない旨が再確認された．

1.3 ウェブサイト

ファカルティ・ディベロップメン活動の速報と情報の蓄積を目的として，2005 年 7 月より，ホームページ（以下，FD サイトという）を運営している．2010 年 4 月に本学ホームページが更新され，それに伴い FD サイトも更新予定であるが現在工事中である．FD サイトには本学ホームページのトップページの「ファカルティ・ディベロップメント」を経て入ることができる．2009 年度までの活動の記録は新 FD サイトの「2009 年度までの活動内容はこちらからご覧ください.」から閲覧出来る．旧 FD サイトのトップページを下に示す．また，図書館１階閲覧室の入口右側の棚に，FD 資料コーナー（写真）を常設設し，FD 関

連の資料，報告書，イベントの案内や申込資料等を置いているのいで，ご利用願いたい．



1.4　FD 事業経費

2009年度のFD事業経理の大項目と細目，およびその実績を示す．派遣および招聘のいずれの研修も回数が減ったこと，および一部の研修経費を部局経費でまかなったことによって報償費，旅費が大きく減っている．

平成２１年度　ＦＤ事業経費（実績）

（単位：円）

費目	項目	細目	実績
報償費			69,200
	研修講師	ＦＤ研修講師（6/24）	50,000
	研修講師	ＦＤ研修講師（3/16）	19,200
旅費			90,460
	招聘	ＦＤ研修講師（6/24）	28,340
	派遣	ＦＤ研修（6/26　学術教養センター）東京	53,120
	招聘	ＦＤ研修講師（3/16）	9,000
使用料			4,220
		ＦＤ研修講師（6/24）タクシー使用	4,220
委託料			1,991,850
		前期授業評価の調査票作成と回答集計処理	999,600
		後期授業評価の調査票作成と回答集計処理	992,250
合計			2,155,730

1.5　事業の実施状況

1.5.1　授業評価

実施概要，質問用紙と回答用紙，全体集計結果を 11 頁より順に掲載する．質問用紙と回答用紙は昨年度と同じである．11 頁の実施概要を 2008 年度のそれと比較すると，前期の学部の参加科目が 377 科目から 351 科目に減少(内訳は経済学部 28 科目減, 生物･海洋資源学部 20 科目増, 看護福祉学部 28 科目減，学術教養センター10 科目増）し，後期も 426 科目から 289 科目に減少（内訳は経済学部 28 科目減，生物・海洋資源学部 43 科目減，看護福祉学部 29 科目減，学術教養センター37 科目減）した.

平成21年度前期　学生による授業評価の実施結果

★実施期間
平成２１年７月６日（月）～７月１７日（金）

★調査票配布・回収状況

<学部>	回収数	配布数
経済学部	1,682 枚	5,125 枚
生物・海洋生物資源学部	1,502 枚	1,876 枚
看護福祉学部	1,345 枚	1,897 枚
学術教養センター	4,475 枚	9,164 枚
計	9,004 枚	18,062 枚

<大学院>	回収数	配布数
経済・経営学研究科	69 枚	161 枚
生物資源学研究科	91 枚	130 枚
看護福祉学研究科	13 枚	67 枚
計	173 枚	358 枚

★参加教員

<学部>		
経済学部	29 人	93.5%
生物・海洋生物資源学部	34 人	97.1%
看護福祉学部	25 人	89.3%
学術教養センター	30 人	90.9%
非常勤講師	57 人	79.2%
計	175 人	87.9%

<大学院>		
経済・経営学研究科	12 人	70.6%
生物資源学研究科	7 人	77.8%
看護福祉学研究科	5 人	41.7%
非常勤講師	8 人	47.1%
計	32 人	58.2%

★参加科目

<学部>		
経済学部	55 科目	75.3%
生物・海洋生物資源学部	74 科目	86.0%
看護福祉学部	52 科目	83.9%
学術教養センター	170 科目	80.6%
計	351 科目	81.3%

<大学院>		
経済・経営学研究科	19 科目	61.3%
生物資源学研究科	9 科目	81.8%
看護福祉学研究科	10 科目	37.0%
計	38 科目	55.1%

平成21年度後期　学生による授業評価の実施結果

★実施期間
平成２２年１月１５日（金）～２月５日（金）

★調査票配布・回収状況

<学部>	回収数	配布数
経済学部	1,281 枚	5,067 枚
生物資源学部	426 枚	1,004 枚
海洋生物資源学部	255 枚	662 枚
看護福祉学部	1,301 枚	2,543 枚
学術教養センター	3,309 枚	8,534 枚
計	6,572 枚	17,810 枚

<大学院>	回収数	配布数
経済・経営学研究科	44 枚	136 枚
生物資源学研究科	26 枚	84 枚
看護福祉学研究科	10 枚	36 枚
計	80 枚	256 枚

★参加教員

<学部>		
経済学部	33 人	91.7%
生物資源学部	19 人	86.4%
海洋生物資源学部	18 人	94.7%
看護福祉学部	27 人	90.0%
学術教養センター	23 人	85.2%
非常勤講師	34 人	70.8%
計	154 人	84.6%

<大学院>		
経済学部	9 人	56.3%
生物資源学部	6 人	66.7%
看護福祉学部	4 人	50.0%
非常勤講師	4 人	40.0%
計	23 人	53.5%

★参加科目

<学部>		
経済学部	60 科目	69.0%
生物資源学部	26 科目	78.8%
海洋生物資源学部	10 科目	45.5%
看護福祉学部	60 科目	80.0%
学術教養センター	133 科目	72.3%
計	289 科目	72.1%

<大学院>		
経済・経営学研究科	11 科目	47.8%
生物資源学研究科	6 科目	50.0%
看護福祉学研究科	6 科目	42.9%
計	23 科目	46.9%

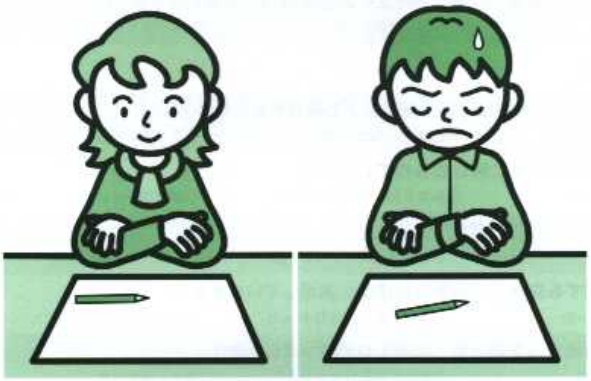
福井県立大学
授業に関する調査

質問用紙

この調査は、県立大学が皆さんに提供している教育を、より良いものにしていくために行うものです。あなたが現在受けているこの授業について、調査ご協力下さい。

回答は、別紙回答用紙に記入して下さい。

あなたに当てはまるもの、あなたの意見や感想にもっとも近いものの番号をマーク、記述して下さい。
ただし、Q1からQ18について、選択肢の中に適切な回答がどうしても見当たらない場合は、⓪をマークして下さい。



本アンケートによる（全学、学部別等）授業評価結果は、本学ホームページ上で今学期末に開示予定です。
過去の集計結果は http://www.s.fpu.ac.jp/fd/fpuinfo.html をご覧下さい。

1 あなた自身について

Q1 この授業に毎回出席しましたか？
①半分以上出席しなかった　②6-8割程度出席した　③ほとんど毎回出席した

Q2 この授業の目標や目的（シラバスに記載）についてどの程度知っていましたか？
①知らなかった　②漠然と知っていた　③明確に知っていた

Q3 この授業（課題・レポートを含む）に意欲的に取り組みましたか？
①意欲的ではなかった　②あまり意欲的に取り組まなかった　③ある程度意欲的に取り組んだ　④意欲的に取り組んだ

Q4 この授業でわからなかった箇所について担当教員に質問しましたか？
質問しなかった場合は、その理由を回答用紙空欄に具体的に記載して下さい。
①内容が理解できないので質問しなかった　②聞きたいことはあったが質問しなかった　③よく理解できたので質問しなかった　④質問したことがある

2 担当教員について

Q5 授業に対する先生の積極的な取り組みや工夫を感じましたか？
①感じなかった　②あまり感じなかった　③ある程度感じた　④感じた

Q6 質問しやすい雰囲気でしたか？
①しやすい雰囲気ではなかった　②あまりしやすい雰囲気ではなかった　③ある程度しやすい雰囲気だった　④しやすい雰囲気だった

Q7 授業中の学生に対する態度は公平でしたか？
①不公平　②やや不公平　③まずまず公平　④公平

Q8 先生の時間の使い方や授業の速度はどうでしたか？
①不適切　②やや不適切　③まずまず適切　④適切

Q9 先生の授業の方法（話し方、板書、プロジェクターの使用、学習支援システム［WebCT等］の活用など）はどうでしたか？また、不適切な点を回答用紙空欄に具体的に記載して下さい。
①不適切　②やや不適切　③まずまず適切　④適切

3 設備・環境等について

Q10 教材（教科書・配布資料・実習要綱・オリエンテーション資料など）は役立ちましたか？
また、不備な点を回答用紙空欄に具体的に記載して下さい。
①役立たなかった　②あまり役立たなかった　③ある程度役立った　④役立った

Q11 教室の環境や設備等（照明・空調・マイク音声・プロジェクター・パソコン・実験実習用機器類の調子など）に不備はありましたか？ また、不備な点を回答用紙空欄に具体的に記載して下さい。
①不備が多かった　②不備がある程度あった　③まずまずの環境だった　④快適な環境だった

Q12 この授業の予習・復習やレポート作成に必要な資料は大学にありましたか？
①無かった　②あまり無かった　③まずまず揃っていた　④揃っていた

4 授業内容について

Q13 シラバスに含まれる情報は授業を受ける上で役立ちましたか？
①役立たなかった　②あまり役立たなかった　③ある程度役立った　④役立った

Q14 授業はシラバスの内容に則したものでしたか？
①則していなかった　②あまり則していなかった　③ある程度則していた　④則していた

Q15 授業中の内容はどの程度理解できましたか？
①理解できなかった　②あまり理解できなかった　③ある程度理解できた　④理解できた

Q16 この授業に対する自分自身の学力到達度に満足していますか？
①満足できなかった　②あまり満足できなかった　③ある程度満足できた　④満足できた

Q17 この授業に関連する学問分野への関心は高まりましたか？
①高まらなかった　②あまり高まらなかった　③少し高まった　④高まった

5 授業全体について

Q18 この授業を総合的に評価して下さい。
①良くない　②あまり良くない　③まずまず良い　④良い

Q19 授業を受けた上での感想など自由に書いて下さい。

Q20 教員設定の質問（別紙参照）
①　②　③　④

Q21 教員設定の質問（別紙参照）

ご協力ありがとうございました

福井県立大学

授業に関する調査

回答用紙

この調査は、県立大学が皆さんに提供している教育を、より良いものにしていくために行うものです。あなたが現在受けているこの授業について、調査ご協力下さい。

回答は、裏面に記入して下さい。

別紙質問用紙の問に対して、
選択回答の場合は、マークシート記入を、
選択回答の場合は、右側空欄に記述を、
して下さい。

記入上の注意

1：記入は、濃い(B程度)鉛筆またはシャープペンシルで強く書いて下さい。
2：訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
3：用紙は、コンピュータ処理しますので、折り曲げたり汚したりしないで下さい。

マーク例） 良い例 (02)…▶● 悪い例 (02)…▶

学籍番号の上2桁の数字をマークして下さい。

00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10

(例) 平成19年4月入学生…07

学部生 所属の番号をマークして下さい。

1:経済学部経済学科 2:経済学部経営学科 3:生物資源学部生物資源学科
4:生物資源学部海洋生物資源学科 5:看護福祉学部看護学科
6:看護福祉学部社会福祉学科 7:科目等履修生・聴講生

1 2 3 4 5 6 7

大学院生 所属の番号をマークして下さい。

8:経済・経営学研究科 地域・国際経済政策専攻
9:経済・経営学研究科 経営学専攻
10:生物資源学研究科 生物資源学専攻
11:生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻
12:看護福祉学研究科 看護学専攻
13:看護福祉学研究科 社会福祉学専攻
14:科目等履修生・聴講生

8 9 10 11 12 13 14

1 あなた自身について

Q1	1	2	3		0
Q2	1	2	3		0
Q3	1	2	3	4	0
Q4	1	2	3	4	0

2 担当教員について

Q5	1	2	3	4	0
Q6	1	2	3	4	0
Q7	1	2	3	4	0
Q8	1	2	3	4	0
Q9	1	2	3	4	0

3 設備・環境等について

Q10	1	2	3	4	0
Q11	1	2	3	4	0
Q12	1	2	3	4	0

4 授業内容について

Q13	1	2	3	4	0
Q14	1	2	3	4	0
Q15	1	2	3	4	0
Q16	1	2	3	4	0
Q17	1	2	3	4	0

5 授業全体について

Q18	1	2	3	4	0
Q19					
Q20	1	2	3	4	
Q21					

記述回答は、『強く濃く』枠内に収め記入して下さい。

「質問しなかった」場合は、その理由を具体的に記載して下さい。 → Q4

授業方法について不適切な点を具体的に記載して下さい。 → Q9

教材について不備な点を具体的に記載して下さい。 → Q10

教室について不備な点を具体的に記載して下さい。 → Q11

授業を受けた上での感想など自由に記載して下さい。 → Q19

回答を記載して下さい。 → Q21

ご協力ありがとうございました

全体集計結果の見方

次頁より授業評価の集計結果を学部（前期・後期），大学院（前期・後期）の順に掲載する．以下に，集計結果の見方を記す．

全集計数	回答された全てのアンケートから学部・学科・入学年度が不明のデータを除いたもの．
Q1 から Q18	アンケートの Q1 から Q18 に対応 設問のキーワードを記すが，詳細は 13 頁を参照．
数値上段	平均値（質問１と２は，3 件法，それ以外は 4 件法）
数値下段	母標準偏差．数値が大きい場合，平均値周りに正規分布状にばらつきが大きい時もあるが，良い評価と悪い評価が２分されている場合もあるので要注意．
集計方法	設問１，設問２は，回答選択肢「１，２，３」をそれぞれ「1 点，2 点，3 点」と得点化，設問３～設問１８は，回答選択肢「１，２，３，４」をそれぞれ「1 点，2 点，3 点，4 点」と得点化，設問に対して回答選択肢「０（該当なし）」で回答された場合および無回答の場合は得点化せず，かつ有効回答数としては計上していない．この得点化規則に則り，設問別，集計グループ別に合計得点を求めて，有効回答数で割った平均値を上段に，母標準偏差を下段に示す．回答選択肢「０（該当なし）」で回答された場合および無回答の場合の人数は母集団に含めず．「―」の欄は有効回答が無かったことを示す．

〔集計グループ〕

全体	全ての集計対象者
学部学科別	当該学部または学科の学生の評価結果を集計
入学年次別	学部学科の枠を越え，学生の入学年次（西暦年の下２桁）別に集計
部局別	当該学部に所属する教員が提供する科目に対する評価結果を集計
規模別	授業が行われた教室の大小別に集計

全体集計結果（学部・前期）

集計グループ（集計数）	Q1出席	Q2目標目的	Q3意欲的受講	Q4質問した？	Q5積極的授業	Q6質問し易い	Q7教員公平	Q8授業速度	Q9授業方法	Q10教材整備	Q11教室環境	Q12図書資料	Q13シラバス	Q14授業計画	Q15内容理解	Q16満足度	Q17関心	Q18総合評価
全体（9004）	2.80	2.28	3.11	2.94	3.26	3.11	3.45	3.23	3.23	3.23	3.24	3.11	3.03	3.23	3.07	2.98	3.13	3.27
	0.45	0.61	0.67	0.87	0.69	0.78	0.64	0.69	0.69	0.64	0.62	0.65	0.69	0.58	0.67	0.72	0.72	0.68
学部学科別（9004）																		
経済学部（3933）	2.74	2.28	3.06	2.82	3.20	3.05	3.41	3.20	3.20	3.18	3.20	3.07	2.99	3.20	3.04	2.96	3.10	3.24
	0.49	0.59	0.66	0.87	0.69	0.79	0.65	0.69	0.70	0.64	0.62	0.65	0.67	0.57	0.67	0.70	0.72	0.68
経済学科（1995）	2.73	2.30	3.07	2.80	3.23	3.05	3.44	3.23	3.22	3.19	3.23	3.10	3.03	3.21	3.05	2.98	3.12	3.26
	0.49	0.37	0.64	0.88	0.67	0.77	0.64	0.67	0.67	0.62	0.61	0.64	0.67	0.57	0.65	0.69	0.70	0.66
経営学科（1938）	2.75	2.25	3.04	2.83	3.17	3.05	3.38	3.18	3.17	3.18	3.18	3.03	2.95	3.19	3.02	2.94	3.08	3.21
	0.48	0.61	0.68	0.86	0.72	0.80	0.66	0.71	0.72	0.67	0.62	0.67	0.68	0.57	0.69	0.72	0.73	0.71
生物資源学部（1137）	2.82	2.25	3.09	2.90	3.25	3.05	3.48	3.23	3.22	3.22	3.24	3.12	2.97	3.19	3.01	2.91	3.13	3.25
	0.39	0.60	0.68	0.93	0.70	0.81	0.61	0.68	0.70	0.66	0.65	0.67	0.72	0.61	0.69	0.73	0.72	0.69
生物資源学科（1137）	2.82	2.25	3.09	2.90	3.25	3.05	3.48	3.23	3.22	3.22	3.24	3.12	2.97	3.19	3.01	2.91	3.13	3.25
	0.39	0.60	0.68	0.93	0.70	0.81	0.61	0.68	0.70	0.66	0.65	0.67	0.72	0.61	0.69	0.73	0.72	0.69
海洋生物資源学部（1621）	2.86	2.29	3.13	3.06	3.27	3.19	3.45	3.23	3.25	3.21	3.24	3.10	3.07	3.22	3.07	2.99	3.10	3.26
	0.37	0.66	0.70	0.84	0.67	0.74	0.63	0.69	0.67	0.66	0.63	0.68	0.70	0.61	0.69	0.73	0.72	0.65
海洋生物資源学科（1621）	2.86	2.29	3.13	3.06	3.27	3.19	3.45	3.23	3.25	3.21	3.24	3.10	3.07	3.22	3.07	2.99	3.10	3.26
	0.37	0.66	0.70	0.84	0.67	0.74	0.63	0.69	0.67	0.66	0.63	0.68	0.70	0.61	0.69	0.73	0.72	0.65
看護福祉学部（2309）	2.85	2.27	3.20	3.11	3.34	3.20	3.49	3.29	3.29	3.31	3.30	3.21	3.08	3.30	3.15	3.04	3.22	3.33
	0.37	0.60	0.63	0.84	0.67	0.76	0.64	0.68	0.68	0.60	0.60	0.62	0.67	0.55	0.66	0.73	0.73	0.68
看護学科（1599）	2.88	2.37	3.24	3.20	3.38	3.26	3.46	3.30	3.31	3.34	3.32	3.22	3.14	3.35	3.18	3.09	3.25	3.34
	0.33	0.60	0.62	0.81	0.68	0.76	0.66	0.70	0.69	0.60	0.62	0.62	0.66	0.56	0.65	0.72	0.72	0.68
社会福祉学科（710）	2.77	2.05	3.10	2.88	3.26	3.08	3.55	3.26	3.24	3.24	3.27	3.18	2.93	3.19	3.07	2.94	3.15	3.30
	0.44	0.56	0.65	0.87	0.64	0.77	0.60	0.64	0.64	0.60	0.53	0.61	0.68	0.50	0.66	0.74	0.73	0.66
科目等履修生・聴講生（4）	3.00	2.75	3.25	3.25	3.50	3.25	3.50	3.25	3.25	3.50	2.75	3.33	3.33	3.33	3.00	3.25	3.25	3.00
	0.00	0.43	0.43	0.43	0.50	0.43	0.50	0.43	0.43	0.50	0.43	0.47	0.47	0.47	0.00	0.43	0.43	0.00
入学年次別（9004）																		
00生（1）	3.00	2.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
01生（5）	2.20	2.60	3.00	3.20	3.20	2.60	3.20	2.80	3.20	3.00	3.20	3.20	3.00	3.00	3.40	3.20	3.20	3.40
	0.40	0.49	0.00	0.40	0.40	0.80	0.40	0.75	0.40	0.89	0.40	0.75	0.63	0.63	0.80	0.40	0.40	0.49
02生（20）	2.75	2.50	3.45	3.20	3.25	3.10	3.40	3.35	3.25	3.25	2.85	3.00	3.05	3.05	3.15	3.25	3.30	3.55
	0.54	0.59	0.59	0.68	0.62	0.70	0.49	0.65	0.54	0.43	0.65	0.00	0.38	0.22	0.36	0.43	0.56	0.50
03生（9）	2.67	2.11	2.78	2.78	3.78	3.22	4.00	3.78	3.67	3.44	3.33	2.71	3.00	3.22	3.00	3.22	2.89	3.33
	0.47	0.31	0.63	1.13	0.42	0.92	0.00	0.42	0.47	0.50	0.47	0.88	0.47	0.42	0.67	0.63	0.57	0.67
04生（14）	2.57	2.29	3.00	2.71	3.07	2.57	3.21	2.93	3.14	3.00	3.00	3.21	2.79	3.21	3.07	2.86	3.14	3.21
	0.62	0.59	1.00	1.03	0.88	1.18	0.86	0.80	0.64	0.76	0.76	0.56	0.86	0.41	0.80	0.91	0.83	0.86
05生（33）	2.61	2.52	3.06	3.05	2.94	2.82	3.45	2.97	2.94	3.21	3.06	3.13	2.94	3.03	2.97	2.70	2.85	3.00
	0.65	0.50	0.75	0.82	1.01	0.93	0.70	0.87	0.70	0.59	0.60	0.60	0.78	0.63	0.72	0.80	0.89	0.89
06生（370）	2.72	2.52	3.31	3.37	3.54	3.44	3.59	3.45	3.38	3.42	3.35	3.34	3.30	3.48	3.38	3.27	3.41	3.51
	0.47	0.54	0.67	0.76	0.60	0.68	0.62	0.62	0.67	0.59	0.63	0.61	0.66	0.55	0.61	0.67	0.68	0.59
07生（1863）	2.80	2.41	3.13	3.04	3.26	3.14	3.37	3.22	3.24	3.24	3.22	3.10	3.11	3.24	3.12	3.06	3.20	3.26
	0.43	0.56	0.59	0.78	0.64	0.68	0.59	0.65	0.63	0.57	0.56	0.58	0.60	0.55	0.60	0.63	0.64	0.63
08生（2456）	2.76	2.14	3.10	2.94	3.31	3.20	3.46	3.28	3.29	3.25	3.23	3.19	3.12	3.26	3.12	3.04	3.19	3.31
	0.46	0.60	0.66	0.82	0.65	0.73	0.62	0.67	0.65	0.62	0.60	0.63	0.65	0.58	0.65	0.70	0.69	0.65
09生（4202）	2.83	2.16	3.09	2.87	3.20	3.04	3.46	3.20	3.19	3.19	3.24	3.05	2.91	3.18	2.99	2.89	3.05	3.23
	0.40	0.61	0.70	0.93	0.72	0.84	0.67	0.71	0.73	0.68	0.65	0.70	0.72	0.59	0.71	0.76	0.77	0.71
10生（31）	3.00	2.13	3.39	2.76	2.97	2.81	3.32	2.81	2.97	3.45	3.29	3.17	2.86	3.46	2.81	2.58	3.19	2.94
	0.00	0.81	0.55	1.19	0.82	0.90	0.86	0.74	0.69	0.61	0.81	0.62	0.74	0.50	0.64	0.73	0.64	0.76
部局別（9004）																		
経済学部（1682）	2.72	2.31	3.00	2.74	3.16	2.99	3.38	3.17	3.16	3.14	3.16	3.07	3.00	3.17	2.98	2.92	3.03	3.19
	0.51	0.59	0.64	0.84	0.67	0.74	0.61	0.69	0.69	0.63	0.59	0.60	0.65	0.55	0.67	0.70	0.70	0.67
生物資源学部（1417）	2.85	2.37	3.16	3.05	3.31	3.24	3.47	3.26	3.28	3.27	3.23	3.16	3.14	3.27	3.07	3.02	3.19	3.29
	0.37	0.62	0.66	0.86	0.65	0.71	0.61	0.67	0.65	0.63	0.61	0.64	0.67	0.61	0.67	0.69	0.66	0.64
海洋生物資源学部（85）	2.92	2.12	3.14	2.91	2.89	2.75	3.52	3.06	3.14	3.16	3.11	3.09	3.00	3.16	3.16	2.82	2.96	2.99
	0.28	0.60	0.62	0.79	0.77	0.80	0.54	0.78	0.76	0.59	0.74	0.69	0.74	0.59	0.67	0.75	0.82	0.71
看護福祉学部（1345）	2.87	2.38	3.24	3.21	3.39	3.27	3.50	3.31	3.34	3.36	3.33	3.26	3.16	3.33	3.22	3.12	3.32	3.37
	0.35	0.60	0.60	0.76	0.65	0.70	0.61	0.67	0.64	0.55	0.57	0.56	0.62	0.54	0.60	0.67	0.66	0.65
学術教育センター（4475）	2.79	2.21	3.09	2.91	3.24	3.08	3.45	3.23	3.22	3.20	3.25	3.07	2.96	3.21	3.05	2.95	3.08	3.26
	0.43	0.60	0.69	0.90	0.70	0.82	0.67	0.69	0.70	0.67	0.64	0.70	0.71	0.59	0.69	0.74	0.75	0.69
規模別（9004）																		
100人以上（4512）	2.78	2.26	3.02	2.79	3.21	3.00	3.45	3.21	3.19	3.18	3.22	3.09	2.99	3.20	2.99	2.91	3.07	3.21
	0.46	0.61	0.66	0.90	0.69	0.80	0.61	0.68	0.70	0.64	0.62	0.64	0.67	0.56	0.69	0.74	0.74	0.68
100人未満（4492）	2.82	2.29	3.20	3.10	3.30	3.23	3.44	3.26	3.27	3.27	3.26	3.14	3.06	3.26	3.14	3.06	3.20	3.32
	0.40	0.60	0.66	0.82	0.68	0.74	0.67	0.69	0.67	0.64	0.62	0.67	0.70	0.60	0.65	0.69	0.70	0.67

全体集計結果（学部・後期）

集計グループ（集計数）	Q1出席	Q2目標明確	Q3意欲的受講	Q4質問した？	Q5積極的授業	Q6質問し易い	Q7教員公平	Q8授業速度	Q9授業方法	Q10教材整備	Q11教室環境	Q12図書資料	Q13シラバス	Q14授業計画	Q15内容理解	Q16満足度	Q17関心	Q18総合評価
全体（6572）	2.76	2.37	3.17	2.99	3.31	3.20	3.47	3.27	3.31	3.29	3.29	3.20	3.12	3.27	3.14	3.06	3.22	3.33
	0.47	0.60	0.65	0.83	0.67	0.76	0.63	0.74	0.67	0.63	0.62	0.64	0.67	0.59	0.67	0.71	0.71	0.67
学部学科別（6572）																		
経済学部（3060）	2.70	2.37	3.12	2.89	3.26	3.13	3.46	3.23	3.27	3.23	3.25	3.14	3.08	3.24	3.08	3.01	3.18	3.31
	0.51	0.58	0.65	0.82	0.67	0.77	0.63	0.73	0.67	0.63	0.61	0.64	0.64	0.58	0.66	0.71	0.70	0.67
経済学科（1542）	2.69	2.38	3.12	2.88	3.27	3.12	3.47	3.25	3.27	3.22	3.25	3.11	3.09	3.24	3.08	3.01	3.18	3.32
	0.52	0.57	0.65	0.83	0.67	0.76	0.60	0.72	0.67	0.65	0.63	0.65	0.65	0.58	0.66	0.71	0.69	0.65
経営学科（1518）	2.71	2.36	3.13	2.91	3.25	3.13	3.44	3.21	3.28	3.23	3.24	3.17	3.07	3.24	3.09	3.01	3.17	3.30
	0.49	0.58	0.65	0.82	0.67	0.78	0.65	0.75	0.67	0.61	0.59	0.62	0.64	0.57	0.66	0.71	0.71	0.68
生物資源学部（809）	2.78	2.31	3.18	2.98	3.29	3.16	3.43	3.20	3.28	3.31	3.29	3.18	3.03	3.20	3.10	3.03	3.19	3.31
	0.44	0.61	0.67	0.87	0.70	0.76	0.68	0.80	0.70	0.68	0.65	0.66	0.76	0.66	0.69	0.73	0.73	0.69
生物資源学科（809）	2.78	2.31	3.18	2.98	3.29	3.16	3.43	3.20	3.28	3.31	3.29	3.18	3.03	3.20	3.10	3.03	3.19	3.31
	0.44	0.61	0.67	0.87	0.70	0.76	0.68	0.80	0.70	0.68	0.65	0.66	0.76	0.66	0.69	0.73	0.73	0.69
海洋生物資源学部（972）	2.85	2.35	3.19	3.01	3.28	3.21	3.43	3.24	3.29	3.27	3.26	3.17	3.10	3.24	3.12	3.03	3.16	3.29
	0.37	0.63	0.62	0.78	0.64	0.69	0.61	0.75	0.65	0.60	0.60	0.62	0.65	0.59	0.64	0.68	0.70	0.64
海洋生物資源学科（972）	2.85	2.35	3.19	3.01	3.28	3.21	3.43	3.24	3.29	3.27	3.26	3.17	3.10	3.24	3.12	3.03	3.16	3.29
	0.37	0.63	0.62	0.78	0.64	0.69	0.61	0.75	0.65	0.60	0.60	0.62	0.65	0.59	0.64	0.68	0.70	0.64
看護福祉学部（1720）	2.80	2.39	3.25	3.17	3.41	3.34	3.54	3.39	3.39	3.42	3.39	3.34	3.23	3.38	3.28	3.20	3.34	3.41
	0.44	0.60	0.64	0.82	0.65	0.75	0.62	0.69	0.67	0.59	0.61	0.61	0.68	0.58	0.66	0.71	0.72	0.67
看護学科（1181）	2.86	2.45	3.31	3.23	3.45	3.41	3.56	3.41	3.40	3.45	3.41	3.36	3.27	3.43	3.31	3.23	3.38	3.42
	0.36	0.61	0.63	0.82	0.67	0.74	0.62	0.69	0.68	0.60	0.62	0.62	0.68	0.58	0.67	0.71	0.71	0.67
社会福祉学科（539）	2.64	2.25	3.12	3.02	3.32	3.16	3.50	3.34	3.36	3.35	3.36	3.29	3.14	3.28	3.21	3.14	3.26	3.39
	0.54	0.56	0.65	0.80	0.60	0.76	0.63	0.67	0.63	0.58	0.59	0.59	0.67	0.56	0.65	0.69	0.72	0.66
科目等履修生・聴講生（11）	2.64	2.64	2.91	2.64	3.73	3.55	3.82	3.55	3.73	3.45	3.82	3.36	3.36	3.82	3.27	3.36	3.27	3.55
	0.48	0.64	0.51	0.88	0.62	0.66	0.39	0.89	0.45	0.89	0.57	0.77	0.64	0.39	0.75	0.64	0.86	0.66
入学年次別（6572）																		
00生（0）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
01生（7）	2.57	2.29	3.00	3.29	2.86	3.14	3.43	3.14	3.14	3.00	3.29	3.00	2.86	2.71	3.14	2.86	2.71	3.14
	0.73	0.88	1.07	0.70	0.64	0.99	0.49	0.99	0.64	0.76	0.45	0.58	0.64	0.88	0.83	0.99	0.88	0.83
02生（25）	2.56	2.40	3.16	2.76	3.12	3.16	3.56	3.36	3.24	3.16	3.36	3.32	3.20	3.20	3.12	3.20	3.44	3.44
	0.64	0.63	0.61	0.91	0.77	0.83	0.64	0.84	0.95	0.73	0.56	0.55	0.57	0.49	0.65	0.85	0.70	0.75
03生（10）	2.80	2.60	3.20	3.00	3.60	3.40	3.70	3.50	3.60	3.60	3.70	3.60	3.40	3.50	3.50	3.50	3.50	3.60
	0.40	0.49	0.75	0.63	0.49	0.80	0.46	0.67	0.49	0.66	0.46	0.66	0.66	0.67	0.50	0.67	0.67	0.49
04生（2）	2.00	2.00	2.50	3.50	2.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.50	3.00	2.50	2.50	3.50
	1.00	0.00	0.50	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.50	0.50
05生（37）	2.65	2.32	3.16	3.20	3.57	2.89	3.70	3.43	3.62	3.51	3.49	3.42	3.16	3.61	3.41	3.38	3.38	3.59
	0.48	0.47	0.75	0.71	0.68	1.06	0.46	0.72	0.54	0.60	0.60	0.66	0.82	0.49	0.68	0.71	0.75	0.64
06生（207）	2.67	2.46	3.30	3.27	3.54	3.46	3.62	3.49	3.52	3.50	3.43	3.38	3.33	3.46	3.40	3.31	3.50	3.62
	0.53	0.55	0.70	0.73	0.58	0.67	0.58	0.67	0.61	0.58	0.60	0.68	0.65	0.56	0.59	0.72	0.60	0.54
07生（749）	2.78	2.40	3.25	3.21	3.33	3.29	3.47	3.31	3.31	3.33	3.21	3.17	3.18	3.32	3.21	3.10	3.33	3.36
	0.44	0.58	0.63	0.81	0.67	0.72	0.59	0.66	0.64	0.61	0.62	0.63	0.65	0.60	0.60	0.65	0.65	0.61
08生（1963）	2.76	2.42	3.17	3.00	3.35	3.26	3.50	3.32	3.34	3.33	3.31	3.25	3.21	3.31	3.17	3.12	3.24	3.36
	0.47	0.57	0.63	0.74	0.63	0.69	0.58	0.68	0.63	0.58	0.58	0.59	0.61	0.58	0.64	0.67	0.67	0.61
09生（3536）	2.76	2.32	3.15	2.92	3.27	3.13	3.44	3.22	3.27	3.25	3.28	3.17	3.03	3.22	3.09	3.01	3.17	3.29
	0.46	0.61	0.65	0.87	0.69	0.79	0.67	0.78	0.70	0.66	0.64	0.66	0.70	0.60	0.69	0.73	0.74	0.71
10生（36）	2.89	2.36	3.42	3.21	3.06	3.22	3.42	3.14	3.17	3.61	3.46	3.44	3.06	3.53	2.83	2.86	3.14	3.03
	0.32	0.58	0.72	0.90	0.79	0.71	0.76	0.71	0.83	0.54	0.55	0.56	0.80	0.50	0.88	0.95	0.93	0.90
部局別（6572）																		
経済学部（1281）	2.70	2.42	3.07	2.83	3.22	3.10	3.45	3.25	3.24	3.21	3.24	3.15	3.11	3.24	3.04	3.00	3.15	3.28
	0.52	0.57	0.64	0.81	0.66	0.74	0.58	0.65	0.66	0.60	0.57	0.57	0.60	0.55	0.65	0.69	0.67	0.64
生物資源学部（426）	2.80	2.34	3.17	2.98	3.30	3.20	3.48	3.29	3.32	3.35	3.33	3.21	3.10	3.24	3.11	3.01	3.22	3.33
	0.41	0.59	0.65	0.85	0.70	0.72	0.64	0.70	0.68	0.66	0.60	0.64	0.73	0.66	0.66	0.71	0.69	0.65
海洋生物資源学部（255）	2.90	2.38	3.21	3.08	3.23	3.19	3.42	3.21	3.27	3.27	3.25	3.20	3.12	3.21	3.11	3.05	3.23	3.26
	0.30	0.64	0.61	0.72	0.67	0.65	0.58	0.69	0.65	0.59	0.53	0.57	0.65	0.59	0.64	0.67	0.65	0.62
看護福祉学部（1301）	2.83	2.43	3.28	3.23	3.43	3.39	3.57	3.40	3.39	3.44	3.39	3.36	3.27	3.42	3.30	3.20	3.37	3.41
	0.41	0.59	0.64	0.77	0.67	0.72	0.60	0.68	0.68	0.58	0.60	0.61	0.67	0.58	0.64	0.70	0.71	0.66
学術教育センター（3308）	2.74	2.33	3.17	2.96	3.30	3.16	3.45	3.23	3.30	3.26	3.27	3.16	3.06	3.24	3.13	3.04	3.19	3.33
	0.48	0.60	0.65	0.85	0.66	0.78	0.66	0.79	0.67	0.65	0.64	0.66	0.69	0.60	0.67	0.72	0.73	0.68
規模別（6572）																		
100人以上（2392）	2.70	2.31	3.08	2.74	3.22	3.03	3.46	3.24	3.23	3.20	3.23	3.13	3.03	3.21	3.02	2.96	3.10	3.26
	0.52	0.61	0.66	0.88	0.69	0.81	0.62	0.70	0.70	0.65	0.63	0.63	0.67	0.58	0.71	0.73	0.75	0.69
100人未満（4180）	2.79	2.40	3.22	3.14	3.36	3.30	3.48	3.29	3.35	3.35	3.33	3.25	3.16	3.31	3.21	3.12	3.29	3.38
	0.43	0.58	0.63	0.76	0.65	0.71	0.64	0.75	0.65	0.61	0.61	0.64	0.67	0.60	0.63	0.69	0.68	0.65

全体集計結果（大学院・前期）

集計グループ（集計数）	Q1出席	Q2目標目的	Q3意欲的受講	Q4質問した？	Q5積極的授業	Q6質問し易い	Q7教員公平	Q8授業速度	Q9授業方法	Q10教材整備	Q11教室環境	Q12図書資料	Q13シラバス	Q14授業計画	Q15内容理解	Q16満足度	Q17関心	Q18総合評価
全体（173）	2.80	2.49	3.37	3.26	3.65	3.54	3.81	3.44	3.51	3.45	3.48	3.36	3.33	3.48	3.30	3.16	3.43	3.57
	0.40	0.53	0.56	0.89	0.52	0.63	0.47	0.69	0.65	0.57	0.62	0.59	0.67	0.60	0.62	0.76	0.67	0.59
研究科専攻別（173）																		
経済・経営学研究科（68）	2.75	2.67	3.51	3.60	3.79	3.69	3.76	3.49	3.65	3.52	3.57	3.47	3.57	3.67	3.50	3.44	3.63	3.67
	0.43	0.47	0.50	0.75	0.44	0.58	0.55	0.74	0.59	0.53	0.55	0.56	0.60	0.58	0.61	0.63	0.59	0.58
地域・国際経済政策専攻（23）	2.65	2.83	3.52	3.61	4.00	3.96	3.96	3.83	3.78	3.48	3.78	3.57	3.83	4.00	3.65	3.61	3.91	3.91
	0.48	0.38	0.50	0.82	0.00	0.20	0.20	0.38	0.41	0.50	0.41	0.50	0.38	0.00	0.48	0.49	0.28	0.28
経営学専攻（45）	2.80	2.59	3.50	3.59	3.68	3.55	3.67	3.31	3.58	3.53	3.47	3.42	3.43	3.50	3.42	3.36	3.48	3.55
	0.40	0.49	0.50	0.72	0.51	0.66	0.63	0.81	0.65	0.54	0.58	0.58	0.65	0.66	0.65	0.67	0.66	0.66
生物資源学研究科（69）	2.83	2.33	3.22	2.94	3.52	3.29	3.86	3.42	3.42	3.44	3.43	3.31	3.09	3.42	3.17	3.09	3.30	3.51
	0.38	0.53	0.59	0.76	0.53	0.68	0.39	0.67	0.67	0.53	0.60	0.61	0.69	0.52	0.56	0.68	0.67	0.58
生物資源学専攻（69）	2.83	2.33	3.22	2.94	3.52	3.29	3.86	3.42	3.42	3.44	3.43	3.31	3.09	3.42	3.17	3.09	3.30	3.51
	0.38	0.53	0.59	0.76	0.53	0.68	0.39	0.67	0.67	0.53	0.60	0.61	0.69	0.52	0.56	0.68	0.67	0.58
海洋生物資源学研究科（22）	2.86	2.32	3.23	2.75	3.48	3.67	3.77	3.10	3.30	3.09	3.36	3.14	3.10	3.05	2.95	2.36	3.00	3.32
	0.34	0.55	0.52	1.22	0.66	0.47	0.52	0.62	0.71	0.73	0.83	0.56	0.53	0.56	0.64	0.77	0.74	0.63
海洋生物資源学専攻（22）	2.86	2.32	3.23	2.75	3.48	3.67	3.77	3.10	3.30	3.09	3.36	3.14	3.10	3.05	2.95	2.36	3.00	3.32
	0.34	0.55	0.52	1.22	0.66	0.47	0.52	0.62	0.71	0.73	0.83	0.56	0.53	0.56	0.64	0.77	0.74	0.63
看護福祉学研究科（13）	2.85	2.69	3.69	3.92	3.85	3.85	3.85	3.77	3.62	3.69	3.42	3.33	3.69	3.46	3.46	3.38	3.77	3.77
	0.36	0.46	0.46	0.27	0.36	0.36	0.36	0.42	0.62	0.46	0.64	0.62	0.46	0.75	0.50	0.74	0.42	0.42
看護学専攻（4）	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.67	3.75	3.00	3.50	4.00	4.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.47	0.43	1.00	0.50	0.00	0.00	0.00
社会福祉学専攻（9）	2.78	2.56	3.56	3.89	3.78	3.78	3.78	3.67	3.44	3.56	3.22	3.22	3.67	3.67	3.44	3.11	3.67	3.67
	0.42	0.50	0.50	0.31	0.42	0.42	0.42	0.47	0.68	0.50	0.63	0.63	0.47	0.47	0.50	0.74	0.47	0.47
科目等履修生・聴講生（1）	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
入学年次別（110）																		
00生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
01生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
02生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
03生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
04生（1）	2.00	2.00	3.00	2.00	4.00	3.00	4.00	2.00	4.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
05生（1）	3.00	2.00	4.00	3.00	4.00	4.00	2.00	3.00	3.00	2.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00	3.00	2.00	3.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
06生（2）	2.00	2.00	3.00	4.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	0.00	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
07生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
08生（40）	2.65	2.48	3.38	3.23	3.78	3.60	3.90	3.68	3.75	3.67	3.44	3.41	3.28	3.55	3.38	3.35	3.55	3.73
	0.48	0.55	0.73	0.85	0.47	0.58	0.37	0.47	0.49	0.47	0.71	0.59	0.71	0.59	0.58	0.61	0.59	0.45
09生（129）	2.87	2.52	3.38	3.27	3.60	3.53	3.81	3.39	3.43	3.40	3.50	3.35	3.36	3.47	3.26	3.11	3.41	3.53
	0.34	0.53	0.50	0.91	0.54	0.63	0.47	0.73	0.68	0.58	0.60	0.60	0.66	0.61	0.63	0.80	0.69	0.62
10生（0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
部局別（173）																		
経済・経営学研究科（69）	2.75	2.68	3.51	3.60	3.79	3.69	3.77	3.49	3.65	3.52	3.58	3.48	3.57	3.68	3.51	3.45	3.63	3.68
	0.43	0.47	0.50	0.75	0.44	0.58	0.54	0.73	0.59	0.53	0.55	0.56	0.60	0.58	0.60	0.63	0.59	0.58
生物資源学研究科（91）	2.84	2.33	3.22	2.90	3.51	3.38	3.84	3.35	3.39	3.35	3.42	3.27	3.09	3.33	3.12	2.91	3.23	3.46
	0.37	0.54	0.57	0.89	0.56	0.66	0.43	0.67	0.68	0.60	0.66	0.60	0.65	0.56	0.59	0.77	0.70	0.60
看護福祉学研究科（13）	2.85	2.69	3.69	3.92	3.85	3.85	3.85	3.77	3.62	3.69	3.42	3.33	3.69	3.46	3.46	3.38	3.77	3.77
	0.36	0.46	0.46	0.27	0.36	0.36	0.36	0.42	0.62	0.46	0.64	0.62	0.46	0.75	0.50	0.74	0.42	0.42

全体集計結果（大学院・後期）

集計グループ（集計数）	Q1出席	Q2目標目的	Q3意欲的受講	Q4質問した？	Q5積極的授業	Q6質問し易い	Q7教員公平	Q8授業速度	Q9授業方法	Q10教材整備	Q11教室環境	Q12図書資料	Q13シラバス	Q14授業計画	Q15内容理解	Q16満足度	Q17関心	Q18総合評価
全体（ 80）	2.88	2.60	3.46	3.56	3.71	3.69	3.85	3.69	3.63	3.66	3.10	3.36	3.54	3.66	3.50	3.36	3.66	3.73
	0.32	0.49	0.52	0.67	0.56	0.49	0.39	0.46	0.58	0.50	0.99	0.64	0.61	0.50	0.55	0.66	0.50	0.47
研究科専攻別（ 80）																		
経済・経営学研究科（ 44）	2.89	2.73	3.50	3.57	3.75	3.80	3.89	3.82	3.77	3.73	2.84	3.30	3.70	3.80	3.52	3.52	3.84	3.86
	0.32	0.45	0.50	0.75	0.57	0.40	0.32	0.39	0.52	0.45	1.17	0.62	0.50	0.46	0.54	0.50	0.43	0.34
地域・国際経済政策専攻（ 10）	2.90	3.00	3.80	3.90	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.80	3.40	3.50	3.90	3.90	3.60	3.80	3.90	4.00
	0.30	0.00	0.40	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40	0.92	0.67	0.30	0.30	0.49	0.40	0.30	0.00
経営学専攻（ 34）	2.88	2.65	3.41	3.47	3.68	3.74	3.85	3.76	3.71	3.71	2.68	3.24	3.65	3.76	3.50	3.44	3.82	3.82
	0.32	0.48	0.49	0.81	0.63	0.44	0.35	0.42	0.57	0.46	1.18	0.60	0.54	0.49	0.56	0.50	0.46	0.38
生物資源学研究科（ 16）	2.81	2.25	3.25	3.25	3.50	3.44	3.69	3.50	3.56	3.44	3.38	3.33	3.13	3.44	3.44	3.19	3.38	3.44
	0.39	0.43	0.43	0.43	0.61	0.61	0.58	0.50	0.61	0.61	0.60	0.79	0.70	0.50	0.50	0.53	0.48	0.61
生物資源学専攻（ 16）	2.81	2.25	3.25	3.25	3.50	3.44	3.69	3.50	3.56	3.44	3.38	3.33	3.13	3.44	3.44	3.19	3.38	3.44
	0.39	0.43	0.43	0.43	0.61	0.61	0.58	0.50	0.61	0.61	0.60	0.79	0.70	0.50	0.50	0.53	0.48	0.61
海洋生物資源学研究科（ 10）	2.90	2.60	3.40	3.70	3.60	3.70	3.80	3.40	3.20	3.80	3.60	3.60	3.60	3.50	3.20	2.70	3.50	3.70
	0.30	0.49	0.66	0.64	0.49	0.46	0.40	0.49	0.60	0.40	0.49	0.49	0.49	0.50	0.60	1.00	0.50	0.46
海洋生物資源学専攻（ 10）	2.90	2.60	3.40	3.70	3.60	3.70	3.80	3.40	3.20	3.80	3.60	3.60	3.60	3.50	3.20	2.70	3.50	3.70
	0.30	0.49	0.66	0.64	0.49	0.46	0.40	0.49	0.60	0.40	0.49	0.49	0.49	0.50	0.60	1.00	0.50	0.46
看護福祉学研究科（ 10）	3.00	2.63	3.75	4.00	4.00	3.63	4.00	3.75	3.50	3.57	3.38	3.44	3.38	3.60	3.80	3.60	3.50	3.63
	0.00	0.48	0.43	0.00	0.00	0.48	0.00	0.43	0.50	0.49	0.48	0.50	0.70	0.49	0.40	0.49	0.50	0.48
看護学専攻（ 3）	3.00	2.67	3.67	4.00	4.00	3.67	4.00	3.67	3.67	4.00	3.67	3.67	3.33	3.67	3.67	3.67	3.67	3.67
	0.00	0.47	0.47	0.00	0.00	0.47	0.00	0.47	0.47	0.00	0.47	0.47	0.94	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47
社会福祉学専攻（ 7）	3.00	2.60	3.80	4.00	4.00	3.60	4.00	3.80	3.40	3.40	3.20	3.33	3.40	3.57	3.86	3.57	3.40	3.60
	0.00	0.49	0.40	0.00	0.00	0.49	0.00	0.40	0.49	0.49	0.40	0.47	0.49	0.49	0.35	0.49	0.49	0.49
科目等履修生・聴講生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
入学年次別（ 80）																		
００生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０１生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０２生（ 1）	2.00	2.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
０３生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０４生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０５生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０６生（ 1）	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
０７生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
０８生（ 5）	3.00	2.60	3.40	3.40	3.40	3.60	3.40	3.60	3.80	3.80	3.40	4.00	3.20	3.60	3.80	3.40	3.80	3.60
	0.00	0.49	0.49	0.80	0.49	0.49	0.80	0.49	0.40	0.40	0.80	0.00	0.75	0.49	0.40	0.49	0.40	0.49
０９生（ 73）	2.89	2.61	3.46	3.56	3.72	3.69	3.87	3.69	3.61	3.64	3.07	3.32	3.56	3.66	3.47	3.36	3.64	3.73
	0.32	0.49	0.53	0.67	0.56	0.49	0.33	0.46	0.59	0.51	1.01	0.65	0.60	0.50	0.55	0.67	0.51	0.47
１０生（ 0）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
部局別（ 80）																		
経済・経営学研究科（ 44）	2.89	2.73	3.50	3.57	3.75	3.80	3.89	3.82	3.77	3.73	2.84	3.30	3.70	3.80	3.52	3.52	3.84	3.86
	0.32	0.45	0.50	0.75	0.57	0.40	0.32	0.39	0.52	0.45	1.17	0.62	0.50	0.46	0.54	0.50	0.43	0.34
生物資源学研究科（ 26）	2.85	2.38	3.31	3.42	3.54	3.54	3.73	3.46	3.42	3.58	3.46	3.44	3.31	3.46	3.35	3.00	3.42	3.54
	0.36	0.49	0.54	0.57	0.57	0.57	0.52	0.50	0.63	0.57	0.57	0.70	0.67	0.50	0.55	0.78	0.49	0.57
看護福祉学研究科（ 10）	3.00	2.63	3.75	4.00	4.00	3.63	4.00	3.75	3.50	3.57	3.38	3.44	3.38	3.60	3.80	3.60	3.50	3.63
	0.00	0.48	0.43	0.00	0.00	0.48	0.00	0.43	0.50	0.49	0.48	0.50	0.70	0.49	0.40	0.49	0.50	0.48

1.5.2　授業公開

全部局の実績一覧を以下に示す．その詳細は 2 章「各部局の FD 活動」にて報告する．

2009 年度授業公開一覧

学期	部局	授業名	担当	公開期間	参観数
前期	経済学部	マクロ経済学Ⅰ	新宮　晋 准教授	7 月 13 日	0 名
		基礎ゼミ	佐野一雄 教授	6 月 23 日	2 名
	海洋生物資源学部	水域環境学	近藤竜二 准教授	6 月 22 日	8 名
	看護福祉学部	臨床病態学Ⅰ	加藤卓次 教授	6 月 8 日	4 名
		基礎看護技術Ⅲ	高鳥眞理子 教授	6 月 23 日	6 名
		精神保健福祉論Ⅱ	真野元四郎 教授	随時	0 名
		精神保健福祉援助演習	真野元四郎 教授	随時	0 名
	学術教養センター	情報処理A	徳野淳子 講師	6 月 2 日	1 名
		中国語Ⅰ	亀田勝見 准教授	6 月 11 日	3 名
		英語Ⅱ	大武　博 教授	6 月 12 日	2 名
		情報基礎演習	徳野淳子 講師	7 月 2 日	1 名
		美学	北村知之 教授	7 月 7 日	1 名
		東南アジアの文化と社会	津村文彦 准教授	7 月 9 日	4 名
後期	海洋生物資源学部	食品栄養学	横山芳博 教授	12 月 1 日	5 名
	看護福祉学部	精神看護学概論	田嶋長子 准教授	11 月 17 日	3 名
		基礎保健学	垂水公男 教授	12 月 4 日	0 名
	学術教養センター	情報処理 E	山川　修 教授	12 月 21 日	1 名

学術教養センターでは前期 105 科目，後期 95 科目を随時公開とした．

1.5.3　FD 研修

学内研修および学外の研修実績を一覧にして示す．それぞれの詳細は 2 章「各部局の FD 活動」にて報告する．

2009 年度 学内研修一覧

テーマ	講師等	開催形式	開催日	参加数
本学の FD への取組みと事業概要を説明	菊沢正裕 教授 本田和正 教授 〃	新任研修	4 月 1 日 7 月 1 日 10 月 1 日	11 名 1 名 1 名
大学におけるキャリア教育の位置づけとキャリアセンターの役割	成蹊大学経済学部 鈴木賞子 教授	講演会	6 月 24 日 13:00-15:00	多数
導入ゼミに改善に向けた懇談会（1）	学術教養センター教員	セミナー	7 月 8 日	18 名
導入ゼミに改善に向けた懇談会（2）	学術教養センター教員，看護福祉学部教員，生物資源学部教員，仁愛大学澤崎先生	セミナー	9 月 28 日	16 名
発達障害学生に対する学習支援のあり方 - 正しい理解から支援の実際まで -	富山大学学生支援センタートータルコミュニケーション支援室発達障害支援チーフ・西村優紀美 准教授	講演会	2010 年 3 月 16 日 13:00-14:30	45 名

2009 年度 学外研修一覧

参加イベント	主催者	日程	出張先	参加者	予算措置
F ﾚｯｸｽ第 2 回ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ大学間連携と相互研修型 FD	F ﾚｯｸｽ	5 月 29 日 13 時～18 時	響のﾎｰﾙ	本学教官 5 名	-
国際大学戦略セミナー2009	株式会社 CSK ｼｽﾃﾑｽﾞ西日本 Blackboard International B.V. / ﾌﾞﾗｯｸﾎﾞｰﾄﾞｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社	6 月 26 日 10:00～18:00	ﾎﾃﾙﾊﾟｼﾌｨｯｸ東京（品川）	学術教養ｾﾝﾀｰ 山川　修 教授	FD 予算
平成 21 年度看護学教育ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	文部科学省	10 月 13 日～15 日	千葉大学	看護福祉学部 田嶋長子 准教授	看護福祉学部経費
第 6 回専門分野別教育開発ｾﾐﾅｰ	金沢大学大学教育開発・支援ｾﾝﾀｰ	11 月 21 日	金沢大学ｻﾃﾗｲﾄﾌﾟﾗｻﾞ	看護福祉学部 本田和正 教授	看護福祉学部経費

2.　各部局の FD 活動

FD 活動は 2008 年後期より部局主体で企画実施するようになった．それは，部局によって FD の意義が異なり，またその理解や普及の度合いも異なることが明らかになった為である．以下に，授業公開と FD 研修を中心に，活動成果を部局担当者がまとめた．

2.1　経済学部（新宮　晋・飛田　正之）

経済学部の本年度の FD 活動は，定例の授業評価と授業公開を中心に行われた．これに加え，今年度は，授業改善についての学部構成員の現時点での評価を尋ねるアンケートを行ったが，授業評価や授業公開の実情を反映して十分な回答が得られなかった．ここでは，授業評価については全学統一で行われたので，以下では授業公開を中心に，また上記教員向けアンケートについては概要のみ報告する．

2.1.1　授業公開

経済学部は，次の通り，前期２コマ，後期１コマの授業を公開した．ただし，前期の１コマ「マクロ経済学Ｉ」（新宮准教授担当）については，残念ながら参観者が得られなかった．

前期　マクロ経済学Ｉ（経済学部専門科目）　新宮准教授
　　基礎ゼミ（経済学部専門科目）　　佐野教授

後期　人的資源管理論II（経済学部専門科目）　飛田准教授
　（※公開順）

以下，授業ごとの報告である．

授 業 名：マクロ経済学Ｉ（経済学部専門科目）
日　　時：2009 年 7 月 13 日（月）　講義 9:00 – 10:30
担 当 者：新宮　晋
受講者数：約 150 名
参加教員：zero

授 業 名：基礎ゼミ（経済学部専門科目）
日　　時：2009 年 7 月 14 日（火）
　　講義 13:00 – 14:10，検討会 14:10 - 14:30
担 当 者：佐野　和雄
受講者数：5 名
参加教員：新宮 晋准教授

概要

・きわめて専門性の高い，数理モデルを用いた英語論文（Paul Milgrom and Nancy Stokey ‘Information, Trade and Common Knowledge,’ 1980）を学生に輪読させる，形式的には外書講読に似たスタイルの授業.

・英文の学生による翻訳と，内容についての学生と教員の間の執拗なやり取りの中で，論文の主旨のみならず細部のロジックをも理解させることを目的とした授業.

コメント・感想

・最初にテキストとなる論文を見たときは，これを学生に理解させるのは無理ではないかと思ったというのが率直な感想である．実際，翻訳の水準に関しては，学生のそれは必ずしも十分とは言えないが，内容についての教員とのやり取りの中から一定の理解に至る様子は，それなりに納得のいくものである.

・テキスト自体は短い論文であるため，その内容について既習分も含め繰り返し教員が解説を加えることで，学生は論旨だけでなくロジックにつても理解して行けているようである．経済学的な思考法はなかなか馴染みにくいだけに，こうしたねばり強い説明と応答を通してそれを「体験」させるやり方は，学生にとって良い訓練になるということが理解できた.

・少人数教育にありがちなパターンであるが，応答が，しばしば発表当事者と教員との間だけにとどまり，受講者全員のやり取りにならない点は，その難しさについて共感しながらも，もう少し工夫がされても良いように思われた.

感想

・4 年生になると就職活動で勉強に身が入らないので，2・3 年生にはできるかぎり勉強させたい．2 年生の前期が重要だと考えて，はじめての公開授業に少人数クラスの基礎ゼミを選んだ.「2 年生向けの基礎ゼミで，英語で書かれた専門論文を読んで理解できるのか？」というご質問を頂いた．論文の主張とその理論的背景を十分に理解することはかなり困難であるが，理論経済学がどのような問題を考察しようとしているのかを，テキストではなく論文を直接読むことによって感じることができるのではないかと思う.

授 業 名：人的資源管理論Ⅱ（経済学部専門科目）

日　　時：2010 年 2 月 1 日（月）　講義 9:00-10:30　検討会 10:40-11:00

担当者：飛田正之准教授

受講者：約 20 名

参加教員：木野龍太郎准教授

概要

賃金制度に関する講義．何によって賃金を決めるのか，賃金項目の説明とそのメリット・デメリットの考察と企業ケース（県内大手企業の評価シート：評価結果がそのように賃金に繋がるかを例として使用）を用いた講義．賃金項目としては年齢給（勤続給），職務給，能力給，業績給（成果給）を扱った．配布資料はレジュメ２枚（Ａ４）と企業ケース（実

際の評価シート，Ａ４）の２種類.

ディスカッション等

（１）参考になった点

1.　レジュメについて

・レジュメと板書が連動している点

　→学生にとっては勉強がしやすいと思われる

　→S 社の「人事考課表」は貴重な資料であることを伝えた方が，学生にそのありがたみがわかりやすいであろう（通常，手に入らないものであるため）

2.　板書について

・板書をしている間に説明をしない点

　→学生には説明と板書の同時並行は難しいので勉強しやすい

　→ただ社会人としては本当は出来ないとだめなので難しいところ

・背中を向けずに板書をされている点（特に左利きなので見やすい）

3.　説明

・具体例が多くわかりやすい

・説明がなめらかで噛まないので聞き取りやすい

（２）改善の余地があると感じた点

1.　板書について

・色がほぼ１色

　→重要な部分がわかりにくい

　　色や下線，波線，矢印などをうまく使ってはどうか

・文字の線が細い（写真参照）

　→板書のインパクトが弱くなり伝わりにくくなると思われる

2.　説明について

・声が少し小さい

　→十分聞き取れるがインパクトが弱く学生に伝わりにくい

　　ビデオを見ているような感覚になってしまうかもしれない

・抑揚が少ない

　→重要なところとそれほどでもないところに差がわかりにくい

　→声の大小，板書の色などとも組み合わせて，重要な部分を強調すると良いのでは

3.　レジュメについて

・企業事例については

　→新聞記事なども利用するほうが「現実味」があるのでは

　→現在「春闘」の時期でもあるのでそれに関する資料を出すことで

　　新聞を読むことを促すことになるのではないか

4.　その他

・学生の受講態度

→着帽，入退出，遅刻などの注意をしたほうが良いのではないか
・ポケットに手を入れて説明するのは印象が良くない
→学生が真似をしてしまう
・学生の発言を促す
→例えばアルバイト給与のことなどを聞いてみると良いのでは
→聞いてばかりだとビデオを見るような感覚になるので
時折，受講生とやりとりをして授業に参加している感覚を持たせる
（３）気づいた点・疑問点
特になし

（４）今後の授業公開
大変意義深いので自分もどんどん参加したいのだが，　報告書を書くのが面倒で参加を控えてしまう．あと以前にも書いたが，事務も参加して違う立場からの意見も出してもらってはどうか．恐らく学生が直接教員に言えないようなことが，事務のほうに伝わっているように思う．教員と事務が相互に情報交換しながら，よりよい授業にしていければと良いと思う．
<u>いただいたご意見に対するコメント等</u>
講義で関連する部分が多い先生を指名し，授業を参観していただき，意見をいただくという試み（昨年度のＦＤ担当の新宮先生，廣瀬先生が考案されたもの）が経済学部では本年度からスタートしましたが，今回は初めての開催でした．参観していただいた先生は「生産管理論Ⅰ・Ⅱ」を担当されている木野先生です．「生産管理論Ⅱ」の講義ではシラバスにも記載されているように「人事労務管理」について扱っていらっしゃいます．生産と人材はかなり関連度合いが高い領域で，関連する領域をご担当されている先生からご意見をいただきとても参考になりました．特に板書の仕方，声の出し方についてはとても参考になり，次年度の講義に活かしていきたいと思います．
授業公開の指針のひとつに「授業の内容に立ち入った議論・批判は行わない」とあります．現段階では「講義内容」について指針に従いご意見をいただくことはしておりませんが，このような形式の授業公開の場合には，授業内容にもご意見をいただくことができれば，参考になるのではないかと思いました．

以上が今年度授業公開の概要である．今年度につていも昨年同様，経済学部としては，もう少し参観教員を増やす工夫が必要であると思われる．他大学では，全講義原則公開としつつも，それだけでは逆に取り留めがなくなるので，授業公開週間を設定してその期間に集中的に授業公開を行っているところもあるようである．こうした工夫も取り入れることを検討しても良いかも知れない．
今年度，初めて，授業検討会ふうの公開を飛田先生にお願いした．コメントにあるように，通常の授業公開とは異なるメリットもあるようなので，密接に関わる科目間で意見交換し合う形の授業公開のやり方を，今後も提案していきたい．

2.1.2　教員向けアンケート

授業評価について来年度から質問項目が改訂されることになり，これによって授業改善がいっそう進むことが期待される．経済学部では，この節目に，これまでの授業評価や授業公開をどのように授業改善に活かしてきたか，経済学部教員にアンケートを採った．残念ながら十分な回答数は得られなかったが，それでも貴重なご意見をいただいたので，アンケートの概要とととともに主なものを報告する．

まず，実際に教員に配布した「アンケート」を以下に掲載する．

++

平成 21 年度 FD アンケートについて

2009 年 11 月 11 日

日頃は本学部の FD 活動にご協力いただき，ありがとうございます．FD 活動は，「授業評価」と「授業公開」，そしていくつかの研修を柱として，学期単位で行っています．とりわけ前二者はこの活動の主要な柱で，授業の改善を促すことを目的とするものですが，今回，この二本柱を中心に，経済学部 FD 活動の現状を把握するため，下記の要領にて，別紙のようなアンケートを作成しました．

このアンケートの趣旨は，来年度から「授業評価」が現在のものよりも簡便な形式に変わるにあたり，これまでのいわば中間総括を，「授業公開」と併せて，経済学部独自にやってみようというものです．恒例化する一方，形骸化している部分もあるかも知れませんが，今回はこれまでの「授業評価」「授業公開」をどのようにポジティブに活用されているかを中心お聞きすることを主眼においています．授業方法の根本的見直しから，「声を大きくするようにした」「板書の字をていねいに書くようになった」といったささやかなものまで，何でも結構です．もちろん，今後の「授業評価」のあり方についての提言も頂戴できればありがたく存じます．

同時に，授業改善の情報を共有することで，それらが授業改善のヒントになればとも考えております．

アンケートの結果は，毎年公開される FD 活動報告書に，経済学部の取り組みとしてまとめる予定です．まとめるに当たっては匿名で集計する予定ですが，回答内容次第では科目が特定されることもあろうかと思われます．従いまして，公開に差し支えのない範囲でのご回答で結構です．

お忙しいとは存じますが，なにとぞご協力下さいますようお願いいたします．

記

対　　象：経済学部所属教員

提出締切：11 月 30 日（月）

提 出 先：新宮または飛田の 10 階メールボックス

（メールでの回答を希望される方には，アンケート用紙のワード・ファイルをお送りしますので，お申し付け下さい．）

授業改善に関するアンケート

1. これまでの「授業評価」をどのように評価しておられるか，簡単にお聞かせ下さい.
2. これまでの「授業評価」における選択項目の数値から授業改善のヒントは得られたでしょうか.
   ①大いに得られた　②少しは得られた　③あまり得られなかった　④見ていない
3. 2 で①②と回答された方のうち，それを授業改善に活用された方にお尋ねします．その内容を具体的にお聞かせ下さい.
4. これまでの「授業評価」で，学生が記入する個別意見から授業改善のヒントは得られたでしょうか.
   ①大いに得られた　②少しは得られた　③あまり得られなかった　④見ていない
5. 4 で①②と回答された方のうち，それを授業改善に活用された方にお尋ねします．その内容を具体的にお聞かせ下さい.
6. これまでの「授業公開」を，公開する立場か参加する立場かのいずれか，または両方について，どのように評価しておられるか，お聞かせ下さい.
7. これまでの「授業公開」から授業改善のヒントは得られたでしょうか.
   ①大いに得られた　②少しは得られた　③あまり得られなかった　④参加していない
8. 7 で①②と回答された方のうち，それを授業改善に活用された方にお尋ねします．その内容を具体的にお聞かせ下さい.

9.「授業評価」「授業公開」と関係なく，この間授業のやり方を変えたという方にお尋ねします.
   9-1：その理由はなんですか.
   9-2：どのように変えられましたか．具体的にお聞かせ下さい.

以上です．ご協力，ありがとうございました.

++

以上の質問項目のうち，コメント項目についての主な回答を以下に紹介する.

1.　について

・授業アンケートは効率が悪い．匿名でリアルタイムな意見が聞きたい.
・自分自身の講義を振り返り，反省点の素材になっています．ただ，７～８回終了時点で，中間テストとともに講義に対する要望や授業の理解度･方法について応えてもらうことにしており，こちらの方が改善に活かすという点では役立ちます.
・何年もやっているとまたかという感じですね．目新しいこともないし，直接学生から言われることの方が影響力があります.
・一斉回答では，学生から本音の意見が聞けないのではないかと思われる.

5. について

・授業改善に活かせるほどのコメントが得られない.

6. について
・他の先生の授業は非常に参考になる.
・もらった意見が予想の範囲内のものだったので，まあそんなものかと思った.
・参観は，毎回面白い.
8. について
・自分も努力しようと思った.
・ほとんど参加できていませんが，以前授業参観をしたときは，後方に座るとどのように声が届いているのか，板書がどのようにうつっているのかわかり，参考になった.
・分野の近い先生からのコメントは非常に具体的で，実際助言に従うこともある.
9. について
・授業の進度をやや遅くした.
・具体例を盛り込むように工夫した.
・納得できることは重視するようにした.
・内容はしょっちゅう変えていますが「やり方」は基本的に同じです.

総括

アンケートについては，ポジティブな意見を中心にとお願いしたが，必ずしも期待にそうものではなかった．むしろ FD について改善点を指摘していただいたと受け止めている．改善について言えば，「授業公開」については，公開と参観の頻度が上がることが期待されるが，2.1.1 ですでに述べたような工夫を試みることがさしあたり考えられる.「授業評価」アンケートで得られた回答のいくつかは，次年度からの質問項目改訂によって改善されると期待されるものもあるので，見守っていきたい.

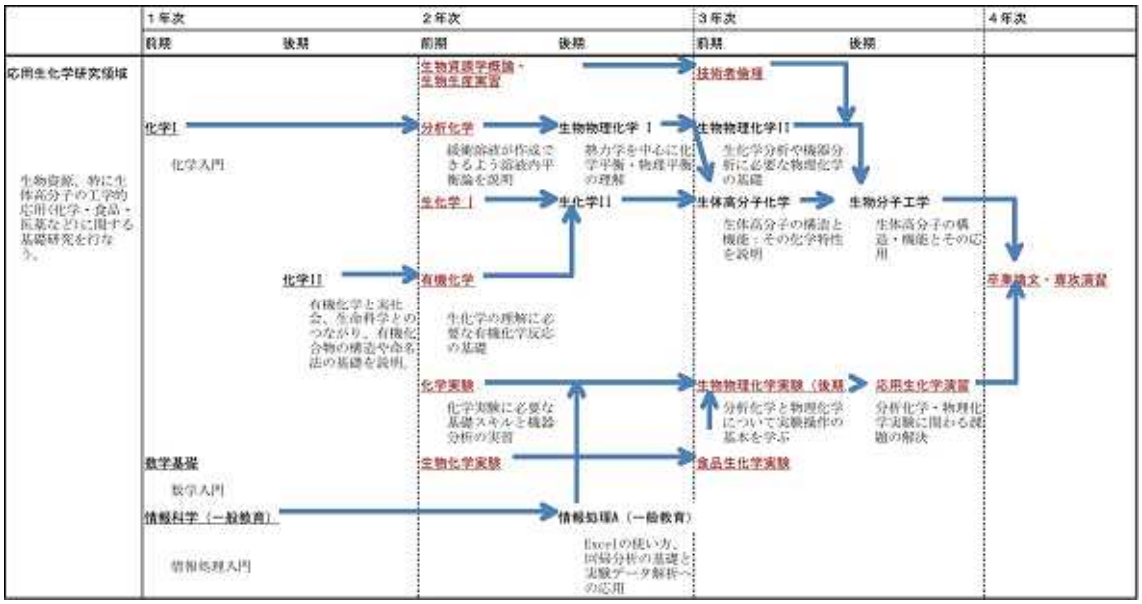
2.2 生物資源学部（木元　久・黒川洋一）

生物資源学部における今年度の授業公開方針は，原則すべて公開とし，参観自由とした.講義テクニックに関する細かい工夫については，これまでの取組みで十分に相互紹介されてきた.そこで，さらに学生の学習意欲を高める方法として，各授業に教員の研究に対する思いや学術的成果を積極的に取り入れ，必要な基礎的内容を修得させると同時に将来に夢を抱かせる方策を検討中である.

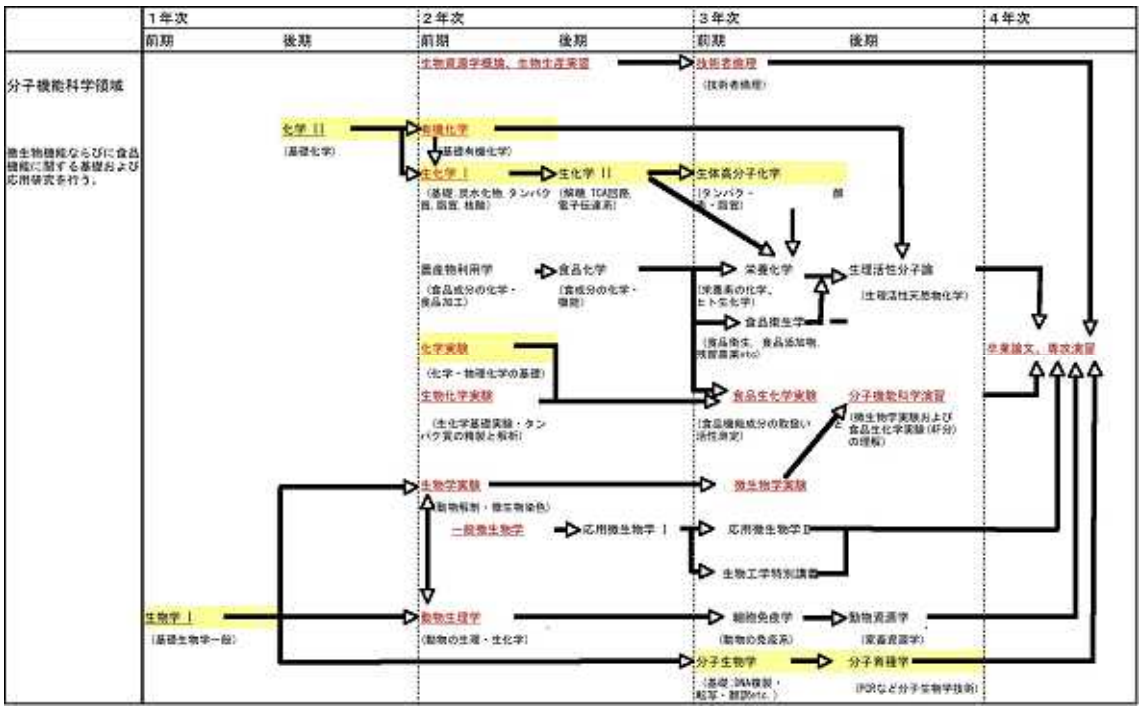
今年度の具体的な作業は，教員の担当・関連科目の位置付けについて現状を把握・理解することを目的として，授業科目の「一覧表（概要を含む）」および「フローチャート」を作成することであった.生物資源学部は専門の異なる４つの研究領域から構成されていることから（応用生化学・分子機能科学・分子生物学・植物資源学），研究領域ごとにカリキュラムを整理し，その結果を公開する（次ページ以降参照）.

これらの作業により，カリキュラムの比較が容易となり，その改訂に役立つものと考えられる.また，他教員が担当している科目の概要を把握することは，自身の授業内容を工夫する際の手助けとなり，重要事項の漏れや不必要な重複内容についてもチェックが可能となる.

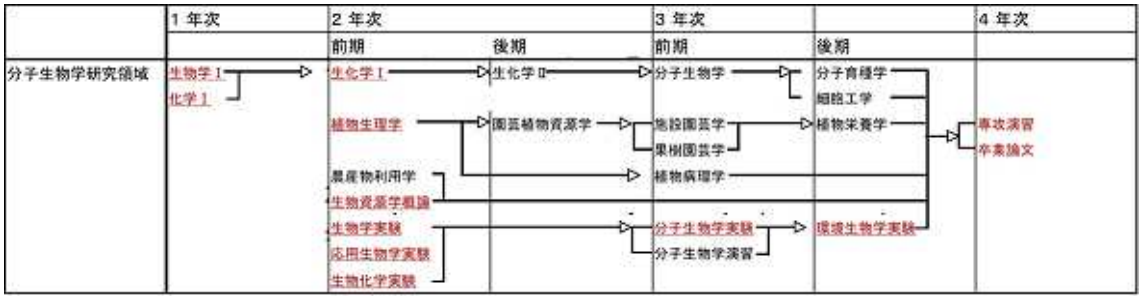
応用生化学研究領域　　下線：必修科目



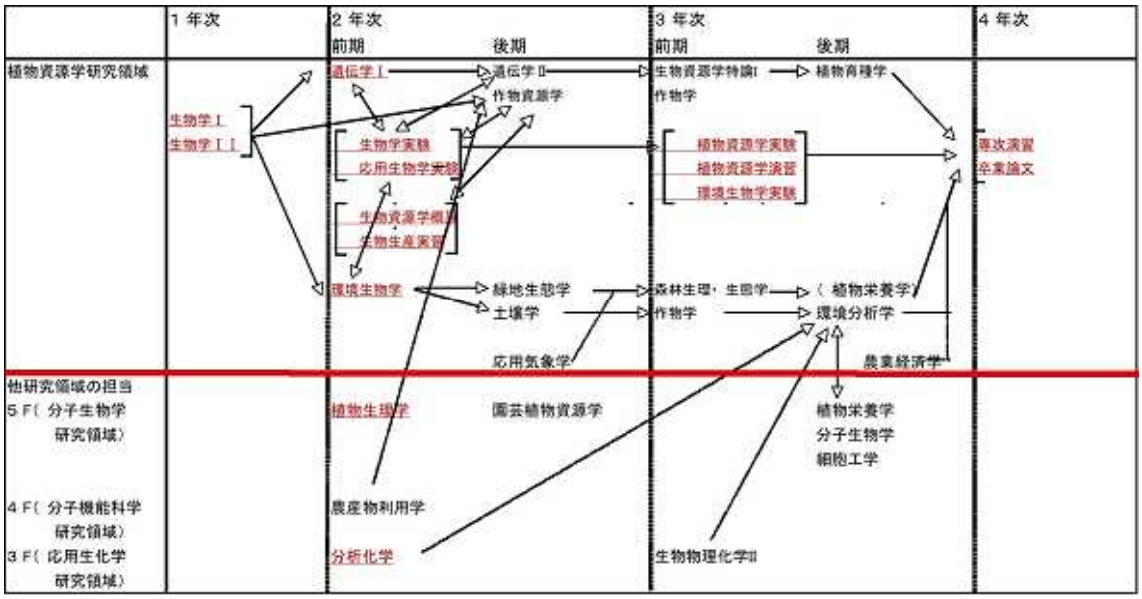
分子機能科学研究領域　　下線：必修科目



分子生物学研究領域　　**下線：必修科目**



植物資源学研究領域　　**下線：必修科目**



2.3 海洋生物資源学部（大竹臣哉）

本年度の海洋生物資源学部 FD 活動では，授業評価および授業公開を行った．以下，授業公開について活動を報告する．

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 授業公開報告（平成 21 年度前期）
実施月日　2009 年６月 22 日（月）1 限
場 所　小浜キャンパス 203 教室
科目名　水域環境学（必修科目）
担当教官　近藤 竜二先生
対象学生　海洋生物資源学科２年生 (当日出席者数 46 名)
参観者数　８名（大泉徹，大竹臣哉，神谷充伸，青海忠久，高尾祥丈，田原大輔，松川雅仁，水田尚志）

(1) 参考になった点

・板書が中心で，書き写すのに必死で，居眠りする学生が殆どいなかったことに感心した．
時々学生に答えさせることで，注意をひきつけている工夫を感じた．
教えるべきポイント（押さえるべき点）が項目として整理されている．
ポイントごとに学生に発問して間をとっている．(一方的な板書にならないよう工夫されている)．
出席している学生の殆どが熱心にノートを取っている．
発問に対して答えやすいようにうまく誘導している．
板書とは古いやり方ですが，学ぶ学生にとっては大変適度なスピードで授業が進められており感心させられました．
注意をひきつけておく方法として板書の活用の重要性を感じました．
学生への質問を実施することで双方向の授業ができている点．
見やすく，分かりやすい配布資料を作成している点．
板書を中心とした授業をしているので，多くの学生で寝ている暇がない．
丁寧な授業で，筆記時間に余裕があり，時間が適当と感じた．
質問が適当な内容で，また学生の刺激になってよかった．
学生が緊張を続けていることに感心しました．

・学生を指名して答えさせるときに，答を引き出す誘導が上手くなされていると感じた．

・授業を進める速度について，学生が理解しやすいように配慮されていると感じた．

(2) 改善の余地があると感じた点

・少し単調な気がしました．例として生物の絵や写真などは示さないのでしょうか．

・発問は出席者全員に考えさせるように工夫すると，もっと効果的ではないでしょうか？

・概念図，イメージ図があると理解しやすいのではないでしょうか？
・もう少し図があってもいいかもしれないと思いました.
・少しビジュアル的な情報を提供すればいいのではと思いますが，それも程度問題ではあります.
・筆記時間が多いため，授業時間での理解が進まないのではと感じました.
・授業全体が単調でメリハリがあったほうがよいのではと思いました.
・図表があると理解しやすいのではと感じました.
・図式を若干取り入れると学生の理解（それぞれの構成要素の相互関係など）がさらに深まるように感じた.

(3) そのほか，気づいた点・疑問点

・出席を取った後に退席した学生が一人いたが，あのような学生にはどのように対処しているのでしょうか.
・部屋が蒸し暑くて学生が気の毒でした．事務で事前に対応してもらえないでしょうか.
・授業科目間のつながりを，より意識させる工夫が必要になっている.
・あえて，スライド，プロジェクターを使用しない理由は？
・ノートを取っている学生が多いように感じた.
・あまりにも多くの情報をたれ流している自分の授業を反省しました.
・出席をとる際に多少騒がしかったので，一旦注目させるほうがよいと感じた.

(4) 授業公開についての意見

・新しく授業担当になった先生に積極的に参加してもらうように工夫しましょう.
・参考にさせていただきます.
・メンバーが限定されている.（参観教員）
・今回の授業公開によって，授業のまとめが不完全になったようですが，授業公開が授業に支障となるようなことはありませんか？

(5) 担当教員のコメント

・他の先生から授業の進め方などについて，客観的なご意見を頂き，ありがたく思います．今後の授業の進め方の参考にさせていただきます.
・板書をしない学生のために，あえて板書を中心とした授業をしています.
・今回の授業は生態系の基本的な内容で，高校の復習の意味を込めてゆっくりと授業を進めました．が，単調であった点は反省すべきところです.
・講義で使用する図表は最初の講義時間に全て配布しており，講義によって配布資料を活用していますが，今回の授業では出番がありませんでした.
・本来であれば，今回の講義でプロジェクターを使った項目を準備していましたが，授業公開後の検討会開催のために講義時間を短縮されたために，これも出番がありませんでした.
・発問に関しては，授業時間ごとに列をこちらが勝手に指定していますが，授業全体を通して万遍なく発言させるように努力しています.

・今日は雨で気温も高く，学生数も多いのに加えて 8 名もの教員が参観に来られたので講義室が蒸し風呂状態でした．エコや電気代を考えて，キャンパスでは冷房を控えているようですが，今日のような日は前もって事務にお願いしておくべきでした．
・今日は他の教員が参観されたためか，静かにノートを取っていた学生が殆どでしたが，普段は寝る学生や，ノートを取らない学生が多く，困っています．
・途中で退席した学生については今回で 2 回目です．誰か把握していますので，出席の取扱で対処します．
・出席をとるときの問題点については，同感です．次回から工夫します．
・授業公開に参加しているメンバーは，毎回同じなのは同感です．以前，FD の担当をしている時もそうでしたが，参加しない教員をどのように参加させるかが問題です．教員の業務として義務化するのも一案だと思います．
・今回は，授業公開で講義時間が短縮されることが分かっていました．授業中の停電などで，時間配分が少しずれ込んだために，予定していた内容を全て進めることができませんでした．授業公開によって授業に支障が全く無いわけではありませんが，FD を進める上で大切なことなので，是非続けてほしいと思います．加えて，この FD 活動に協力的でない教員の参加も期待します．

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 授業公開報告（平成 21 年度後期）
実施月日　2009 年 12 月 1 日（火）2 限
場 所　小浜キャンパス 203 教室
科目名　食品栄養学（選択科目）
担当教官　横山 芳博先生
対象学生　海洋生物資源学科３年生 (当日出席者数 15 名)
参観者数　5 名（大泉徹，大竹臣哉，神谷充伸，青海忠久，水田尚志）

(1）参考になった点
・具体例やうんちくがふんだんに盛り込まれており，聞いていてとても楽しく，実生活にためになる授業でした．
・幅広い分野の難しい問題を豊富なトピックスをまじえて平易に解説されていることが参考になりました．
・わかりやすい言葉で丁寧に説明している．たとえ話など豊富．
・あまりたくさんのスライドを示さないので要点がよくわかる．
・プリントを併用している．
・学生を良く見た授業でした．
・たとえが豊富で興味深い授業でした．
・授業の内容が多岐にわたり，学生の興味を引きやすいように構成されていた点がよかったです．
(2) 改善の余地があると感じた点

・学生への質問を織り交ぜても良いように感じました.
・もう少しゆっくり話したほうが良いのではないでしょうか？
・本論（本授業を通じて理解すべきこと）と余談（これも授業へのひきつけのために必要ですが）のバランス，タイミングについては改善の余地があるように思いました.
・使う言葉は統一したほうがよい.
・やや単調
・学生とのやり取りが少なく一方的になりがち.
・話題が豊富だが，説明が多く，緊張が長く続きます.
・スライドの記号が分かりづらい.
・授業の進め方がやや一方向的であると感じた．学生の理解度を判断する上でも，学生とのコミュニケーション的要素をさらに増やす方がよいと考えます.

(3）そのほか，気づいた点・疑問点

・口頭による説明がメインでしたが，ノートに書き取っている学生は余りいませんでした．彼らはどの程度理解しているのでしょうか？
・スライドで出てくる「＞」「＞＞」のマークは使い分けているのでしょうか？
・平易に解説しようとするためだと思いますが，乱暴な表現，学術的でない表現が時折みられるのが少し気になりました.
・遅刻者が多く見られました.

(4) 授業公開についての意見

・新しく授業担当になった特に若い先生に授業公開をしていただいたらいかがでしょうか.
・参加したことのない先生に参加しない理由やどうしたら参加するか，アンケートしてみたらいかがでしょうか.
・個別（１回）の授業公開は，授業のスキルを交流するのに有意義だが，１５回の授業の構成，設計を含めて意見交換する研究会があると，科目間の内容調整やカリキュラムの見直しに役立つのではないでしょうか？
・必修科目など人数の多い授業を見たい.

(5) 担当教員のコメント

FD 以外の絡みで行ったものも加えると授業公開はこれで 3 回目になります．改善点など客観的な意見をいただけることに加えて，他の先生方がこられるということで緊張感もあり，たまに行うのは自分のためになると思いました.

3 回生対象選択科目であるこの食品栄養学は，学生が何気なく行っているであろう摂食という行為が，健康な生活を送る為に如何に大切であるかを各々が考える機会になることを期待して行っています．いただいた意見は，勇気付けられるものがあると同時に，さらに改良の余地も多くあることに気付かせてくれるものでした．貴重なご意見を参考に，限られた時間でより良い講義となるように改善したいと思います.

授業公開に関しての希望と意見です．今後，自身の講義の参考とするために，経験豊富な先生方の講義をぜひ拝見させていただきたいと思います．また，改善という意味では，講義を担当されて間もない方に授業公開をしていただくのが効果的かと思います．

2.4　看護福祉学部（本田和正，塚本利幸）

看護福祉学部で本年度に実施した FD 活動は授業評価，授業公開，FD 研修（学外）である．以下には授業公開と FD 研修について記述する．

2.4.1 授業公開

2009 年度の授業公開は以下の方針で実施した．

看護学科

1. チーム員からの依頼による授業公開を前期，後期各２件程度を実施する（全学に公開の案内を出す）．
2. 学科内において自主的に行われている授業参観（同一領域の教官が授業を参観してコメントする等）について，実施された場合にチーム員宛に報告書を提出してもらう．授業の内容にも踏み込んだ指摘がされる場合もあり得るので他学部のへの案内，公開はしない．

社会福祉学科

1. チーム員からの依頼による授業公開を前期，後期各２件程度を実施する（全学に公開の案内を出す）．

これらの方針によって実施した授業公開は，前期４件（看護学科は依頼による公開が２件，社会福祉学科２件），後期４件（看護学科は依頼による公開が２件，社会福祉学科２件）であった．授業公開は2005年度に作成された基本方針とガイドラインに概ね沿って実施したが，担当教官の裁量で変更した．

2.4.1.1　実施概要

実施概要は表 2.3-1のとおりである．

表 2.3-1　2009年度授業公開（看護福祉学部）

月日（曜日）	時限	講義名	教員名（学科）	教室	学生数(学年)	参観者数
6月 8日（月）	1	臨床病態学Ⅰ	加藤（看護）	L210	57(1)	4
6月23日（火）	3	基礎看護技術Ⅲ	高鳥（看護）	L210	55(2)	6
11月17日（火）	4	精神看護概論	田嶋（看護）	L210	54(2)	3
12月 4日（火）	3	基礎保健学	垂水（看護）	L110	57(1)	0
随時（水）前期	1	精神保健福祉論Ⅱ	真野（社福）	N252	(3)	0
随時（金）前期	1	精神保健福祉援助演習	真野（社福）	N252	(3)	0
随時（水）後期	1	精神保健福祉論Ⅰ	真野（社福）	N252	17(2)	0
１月６日（水）	3	社会学概論	塚本（社福）	L209	30(1)	0

社福；社会福祉

2.4.1.2　実施教員による授業公開の報告より

（１）臨床病態学Ⅰ（看護学科）

日時：2009 年 6 月 8 日(月）

参観授業名：臨床病態学Ⅰ

担当教員名：加藤卓次

看護学科一年生を対象にした臨床病態学Ⅰの授業公開を行いました.

看護学科の 4 名の先生方（本田和正教授，大川洋子准教授，笠井恭子講師，佐々木絹代助教）に授業を参観していただきました.

各先生方から下記のようなご指摘を頂きました.

（１）「参考になった点」

・小テストの内容が要点をとらえている.

・小テスト実施後，直ちに解答と解説を行っており，復習になっている点が学習の積み重ねとなっており参考になる.

・図や写真が多く用いられ，イメージ化につながる.

・配布資料がすっきりして見やすい.

・配布プリントの項目立てが明確で，何を勉強すれば良いかが明確である.

・おさえておくべき知識とそうでない知識が明確に説明されているので，学生が何を勉強すれば良いかが理解しやすい.

・おさえておくべき重要事項およびその根拠も明確で分かりやすい.

・授業の途中でも質問を受けており，学生も積極的に質問しており良い雰囲気で授業が行われている.

（２）「改善の余地があると感じた点」

・説明しているプリントが変わるときには説明のスピードを緩めたり，学生が見ているプリントと説明とあっているかどうか確認が必要ではないか.

（回答：今後注意したいと思います）

・パワーポイントが後ろの席から少し見にくいように感じた.

（回答：今後注意したいと思います）

・パワーポイントの画像をもう少し大きくしたほうがいいのではないか.

（回答：画像を大きくします）

（３）「気づいた点・疑問点など」

・小テストは成績評価の対象となるのですか.

（回答：小テストの成績は 30 点満点として成績の評価対象としています）

各先生方からご指摘いただきました点につきましては，すみやかに改善し，出来るだけ学生に分かりやすく興味が持てるような講義を心がけていきたいと考えています.

以上，授業公開報告をさせていただきます.

（２）基礎看護技術Ⅲ（看護学科）

実施月日	2009 年 6 月 23 日（火）
場所	福井キャンパス　L210
科目名	基礎看護技術Ⅲ（必修）
担当教官	高鳥眞理子　教授
対象学生	看護学科 2 年生
対象学生数	55 名全員
参観者数	6 名

授業公開調査票の結果

【参加教員の意見】原文のまま

（１） 参考になった点について，お書きください.

授業への動機づけ

＊ 授業開始時に，授業内容や今後の見通しを述べることで，学生の準備や動機づけを高めることができていたように思う．学生にとって目先の大きな課題である基礎実習をイメージさせることは，学ぶ意欲につながると思われた.

学生の思考の活性化

＊ 多人数を対象とした講義において，一人一人が受け身の学習にならないための工夫がこらされていた（声を出して文章を読ませる・短時間の討論を設ける・穴うめを必要とする資料）.

＊ 教授・伝達の授業ではなく，学生に考えさせる，思考活動を活発化させるという視点で，グループワークをして発表させるという方法がたいへん参考になった.

＊ 学生に「声を出して読ませる」というのは，学生自身の意識を活性化させるので，是非，自分の演習の中でも積極的に取り入れていきたい.

＊ ただ一方的に講義をすすめるのではなく，途中のグループワークによって学生自身に考えてもらうのは，思考力アップにつながり理解が深まると思う．また，発表してもらった後も，学生の発表内容に加え，それがどういうことなのか，何を意味しているのかが説明されていたため，より理解が高まると思った.

＊ 声を出して資料を読ませるという点は，学生に刺激になるので良いと思いました（自分の授業でも取り入れてみたい）.

＊ 授業中にミニグループワークをさせるのも学生が受け身にならず良いと思いました（これも取り入れたい）.

＊ グループごとに話し合う時間を設け，それぞれの意見に対して，補足や確認を行いながら授業展開されており，学生が考える時間は多く設けられていると感じた.

スライド・資料

＊ スライド，配布資料が非常に精選されており，無駄なくコンパクトである点を見習い

たい.

＊ パワーポイントがわかりやすく，重要な箇所は学生に書き取らせている点が参考になりました.

授業内容

＊ １年次の講義（看護学原論）での学生の学び，気づきを再び呼びさまし，看護過程の根底を理解させている点が非常に参考になった.

＊ 初めて授業公開に参加しました．学生の時は真剣に聞いていませんでしたが，あらためてきちんと聞くと，理論っておもしろいなぁと思いました.

＊ いろいろな理論を知っていることで，いろいろな視点からみることが出来，ケアの可能性が広がると思いました.

＊ 精神病棟でのにおいの話しなど，実際の体験をふまえたお話は興味深く聞きました.

＊ 看護過程について，一通り説明した後に，発展の経緯などわかりやすく展開されていた.

＊ 資料をもう一度各自で読む時間があり, その場で知識の確認を行うことができていた.

＊ 看護過程というと幅広い内容ですが，重要な所がよく分かりました．とてもわかりやすい理解できる授業でした.

（２）改善の余地があると感じた点について，お書きください.

マイクの調子

＊ マイクの音が割れたり，音を拾えなくなったりしていた．学生が聞こえにくいとか，授業環境について積極的に声を出して希望を出せるよう，全体オリエンテーション等でアナウンスしておくと良いのではないか．授業内容の理解度や集中力に影響すると思った.

（３）その他，気づいた点・疑問点などありましたらお書きください.

学生の態度

＊ そっぽを向いている学生はおらず，熱心に聴講している姿にとても驚きました．１時間以上持続していました．午後一番の授業なのにすごいことだと思います.

（４）今後の授業公開を行うにあたって，ご意見がありましたらお書きください.

＊ 科目全体の中での公開授業の位置づけが分かると，より意味があるかもしれない．次にチャンスがあった時はシラバスと比べながら臨みたいと思う.

＊ 実習のない時に授業公開があると参加しやすいのでありがたいです.

＊ 学生がどのような内容の授業を受けているかを知ることができ，実習指導に活かせることが多く得られることに気づきました．今後も積極的に参加していきたいと思います.

【担当教員のコメント】

授業公開に参加してくださった教員の皆様（６名）から，多くの貴重なご意見を頂き深く感謝致します．授業においては，学生の頭脳を活性化させるため「問いかけ」を行うとともに，学生の五感を刺激できるような方法を取り入れるよう心がけています・・・これらがわずかでも功を奏しているか？については自信がありませんが･･･．この「問いかけ」に対する学生の様々な反応（想定外のものを含めて）は，私自身の頭脳の活性化にも役立ち，新たな思考を得ることにつながっています．また，本学科の学生は講義中の居眠りや無駄話が少なく，いつも真面目に聞いてくれますので，教員のモチベーションもおのずと高まります．こうした学生の態度や本授業に参加して頂いた教員の皆様のご意見を糧に，学生の学習意欲を高められる授業が展開できるよう，絶えず努力をしなければならないと思っています．

（３）精神看護概論（看護学科）

実施月日　2009 年 11 月 17 日（火）　4 限
場所　福井キャンパス　L 210 教室
科目名　精神看護概論
担当教官　田嶋　長子　准教授
対象学生　看護学科２年生
学生数　55 名全員
参観者数　3 名

授業公開調査票の結果
【参加教員の意見】原文のまま
（５）　参考になった点について，お書きください．

＊ グループディスカッションを採用していた点．学生さんにとって，自主的な学習に繋がると思いました．
＊ 学生の身近にある試験勉強を例にしてストレスの説明があり，分かりやすかった．
＊ 学生の演習・発表を生かしたまとめ（看護のあり方，必要性）への流れが分かりやすかった．

（６）　改善の余地があると感じた点について，お書きください．

＊ 語尾が分かりにくい単語があった．後ろは聞こえにくい，マイクの使用をお勧めします．
＊ まとめとして，説明があったが，板書すると印象に残る．
＊ プリントを渡しながら説明していると，後ろの方が聞いていなかった．時間が迫っていたせいもありますが．
＊ 資料部数が少なかった点．多めにプリントするか，配布方法に工夫を．
＊ 後ろに座っていると，学生がざわついた時と教員の声が重なると聞き取れないことがありました．

（７） その他，気づいた点・疑問点などありましたらお書きください．

＊ 抽象的な概念から，具体的な事象へ，そしてまとめと１コマの授業の中で一貫性を感じた．

＊ セルフケアについてのグループワークを行い，学生から出された具体をひとつひとつ確認していく作業の中で，その具体を抽象化し，足りない部分は補足するという内容に引き込まれました．

（８） 今後の授業公開を行うにあたって，ご意見がありましたらお書きください．

＊機会を見て，ディスカッション形式も採用してみたいと思います．

【担当教員のコメント】

授業公開に参加してくださった教員の皆様（３名）から，貴重なご意見を頂きありがとうございました．学生が抽象と具体を結び付けられるように，具体的な事象からグループワークで考えることを取り入れています．グループワークに参加する為，動きながらの説明になってしまう時もあり，聞き取りにくい点の改善や工夫が必要だと考えます．

資料の配布と，板書にもっと工夫をしていきたいと思います．

（４）基礎保健学（看護学科）

実施月日　2009 年 12 月 4 日（金）　3 限
場所　福井キャンパス　L 110 教室
科目名　基礎保健学
担当教官　垂水公男　教授
対象学生　看護学科 1 年生
参観者数　０名

（５）精神保健福祉論Ⅱ（社会福祉学科）

実施月日　随時（前期）
場所　福井キャンパス　N 252 教室
科目名　精神保健福祉論Ⅱ
担当教官　真野元四郎　教授
対象学生　社会福祉学科　３年生
参観者数　０名

（６）精神保健福祉援助演習（社会福祉学科）

実施月日　随時（前期）
場所　福井キャンパス　N 252 教室
科目名　精神保健福祉援助演習
担当教官　真野元四郎　教授

対象学生　社会福祉学科３年生
参観者数　０名

（７）精神保健福祉論Ⅰ（社会福祉学科）
実施月日　随時（後期）
場所　　福井キャンパス　　N201教室
科目名　　精神保健福祉論Ⅰ
担当教官　真野元四郎　教授
対象学生　社会福祉学科２年生
参観者数　０名

（９）社会学概論（社会福祉学科）
実施月日　2010年1月6日（水）　3限
場所　　福井キャンパス　　L209教室
科目名　　社会学概論
担当教官　塚本利幸　准教授
対象学生　社会福祉学科２年生
参観者数　０名

2. 4. 1. 3　授業公開の総括

看護学科

授業の参観者数は多いとは言えず，後期の１件では参加者無しであった．看護学科では隣地実習の時期に多くの教官が学外に出ており，授業を参観したくても出来ない事態になることが前年度に判明しているが，公開教官の都合もあり，調整が難しいのが現状である．

授業公開に参加した教官からは授業公開が有益であったと言う感想をいただいており，今後も継続的に授業公開を実施していくべきであると感じている．今後は学科としての教育の整合性を確認するために内容にまで踏み込んだ授業公開も必要であろう．また，学科全体として見ると授業公開の随時自由公開化は時期尚早であり，しばらくはチーム員が授業公開をリードして実施していく必要性を感じている．

社会福祉学科

前期に随時参観可という形で２つの公開授業，後期に随時参観可という形で１つ月日指定の形で１つの合計２つの公開授業を実施したが，残念ながら１人の参観者もなかった．

看護学科と同様，社会福祉学科でも実習や見学，そのための打合せ会議といった用件で多くの教官が学外に出ており，授業参観のための時間を確保することが容易でないことが判明した．

こうした事態がある程度予想できたので，公開日時を限定しない随時参観可の科目を多く用意したが，曜日と時限が固定されているため結果として，参観者は０であった．

来年度以降は，公開する授業のコマ数を増やすなどの対応を行い，参観したくても時間的な制約のため参観できないといった事態が発生しないよう調整していきたい．

2. 4. 2　FD研修

本年度実施したFD研修は学外研修が２件（看護学科）であった．

2.4.2.1　実施概要

実施状況は表 2.3–2 のとおりである．

表 2.3–2　看護福祉学部におけるFD研修概要

分類	実施日	内　　容	参加者数
学外研修	2009年10月13-15日	テーマ 平成21年度　看護学教育ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 場所　千葉大学 形式　基調講演『大学教育におけるｶﾘｷｭﾗﾑ検討の動向』・『大学教育におけるｶﾘｷｭﾗﾑの展開の考え方』・ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 概要　大学における看護系人材養成の有り方に関する検討会の第一次報告についての講演と，大学での看護学の教育についての講演および以下のｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ ①　展開専門科目（講義・演習）の実施方法を工夫したｶﾘｷｭﾗﾑ ②　臨地実習施設との連携や臨床講師活用を導入したｶﾘｷｭﾗﾑ展開 ③　一般教養科目の充実や専門科目との関連を考慮したｶﾘｷｭﾗﾑ展開	看護学科から1名
学外研修	2009年11月21日	テーマ 第６回専門分野別教育開発セミナー「国際標準の大学教育いかに自分の専門を英語で教えるか」 場所　金沢大学サテライトプラザ 形式　基調講演，事例報告および討論 概要　基調講演「英語による授業のノウハウ共有」 中井俊樹（名古屋大学高等教育研究センター准教授 事例報告（３件） 「外国人から見た英語による授業運営」 Ertl John Josef（外国語教育研究センター准教授） 「環境をテーマとするｼﾞｮｲﾝﾄｸﾗｽの実践報告」 結城正美（外国語教育研究センター准教授） 「工学系大学院における英語による専門教育の実践報告」 中山譲二（自然科学研究科教授） ディスカッション	看護学科から1名

2.4.2.2　学外研修

（1）平成20年度看護学教育ワークショップ参加報告

日時　2009 年 10 月 13 日～11 月 15 日

場所　千葉大学

報告者　看護福祉学部看護学科　田嶋　長子　准教授

内容

特別講演

① 13 日 14：30～

小山田恭子（文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官）

『大学教育におけるカリキュラム検討の動向』

内容：大学における看護系人材養成の有り方に関する検討会の第一次報告について

1）現状

課題：学生の多様化の進行．学士課程での学習成果の明確化が要請される

能力の多様化，高度化に伴い過密化しているカリキュラム

大学の急増などにより，実習施設の確保が困難

2）今度の人材養成のあり方

基本方針：あらゆる場，あらゆる利用者のニーズに対応できる応用力のある国際性豊かな看護系人材の養成を目指す

保健師教育は，大学による選択性の導入を可能とする

（保健師・助産師を含めた教育を学士課程で実施する場合は，学生の高い学習意欲，適切な教育課程や教員数，実習施設の確保により，質の高い保健師・助産師教育を実施できる体制が整備されているべきである．）

3）今後の課題

* **新たな看護学基礎カリキュラムの具体的な内容**
* **大学院における高度専門職業人（保健師・助産師を考えている）養成のあり方**
* **長期的には，指定規則の学士過程のカリキュラム構築に対する影響などの問題点を明確にし，質を担保する新たな仕組みを検討することを期待する．**

② 14 日 11：00～

菱沼典子（聖路加看護大学看護学部長）

『大学教育におけるカリキュラムの展開の考え方』

看護師養成課程の 23%が大学．2 年課程養成所が 25%近くを占めている．

平成 10 年から 20 年にかけて大学数が 2.5 倍になり，100 校の増設．

（教育者の準備は行われていなかった）

大学での看護学の教育について

カリキュラムを考える　　など

テーマ別グループワーク
④　展開専門科目（講義・演習）の実施方法を工夫したカリキュラム
⑤　臨地実習施設との連携や臨床講師活用を導入したカリキュラム展開
⑥　一般教養科目の充実や専門科目との関連を考慮したカリキュラム展開
上記 3 つのテーマ別のグループワーク

◎　導入と，各グループで共通して検討された内容
【各大学での現状や問題点の抽出
どのような教育が必要かの検討･･･ミニマムエッセンシャルズの設定の必要性】

◎　グループ別検討内容
①　展開専門科目（講義・演習）の実施方法を工夫したカリキュラム
・領域を超え，4 年間通しての技術演習カリキュラムを工夫している大学の具体的な展開を紹介
・実践する為の課題
　・教員の共通認識の必要性（領域間･教員間の目標の共有と相互理解の必要）
　・教員力の向上
　・臨床との連携の強化
　・教育方法（演習項目など）の精選

②　臨地実習施設との連携や臨床講師活用を導入したカリキュラム展開
・看護実践能力の獲得には，大学の教育目標と同時に，学生個々が「自分の目標」を持ち，それを臨床と連携して教育してゆく視点で考える．
・臨床講師の活用･･･早期から大学の講義に参加する形態を考える．臨床講師の育成の必要．
・臨床との距離を縮める･･･大学の教員が外来で相談外来を立ち上げた
・人事交流のシステム作り

③　一般教養科目の充実や専門科目との関連を考慮したカリキュラム展開
・一般教養科目の考え方として，専門にひきつけた教養になっているか
・一般教養を学習する動機付け
・教養科目の配置（楔形，カリキュラムアドバイザーの設置）
・課題は，アウトカムの設定，教員の意識

（2）第 6 回専門分野別教育開発セミナー 「国際標準の大学教育 いかに自分の専門を英語で教えるか」
日時　2009 年 11 月 21 日
主催　金沢大学教育開発・支援センター

場所　　金沢大学サテライトプラザ
報告者　看護福祉学部看護学科　本田　和正　教授

プログラム：
１３時～１３時１０分　開会挨拶
長野　勇（金沢大学副学長）
青野　透（金沢大学教育開発・支援センター長）
１３時１０分～１４時１０分
基調講演「英語による授業のノウハウ共有」
中井　俊樹（名古屋大学高等教育研究センター准教授
１４時１０分～１４時２０分　休憩
１４時２０分～１５時５０分　学内事例報告（３件）
「外国人から見た英語による授業運営」
Ertl John Josef（外国語教育研究センター准教授）
「環境をテーマとするジョイントクラスの実践報告」
結城　正美（外国語教育研究センター准教授）
「工学系大学院における英語による専門教育の実践報告」
中山　譲二（自然科学研究科教授）
１５時５０分～１６時０５分　休憩
１６時０５分～１７時０５分　ディスカッション
１７時０５分～１７時１０分　閉会宣言
志村　恵（金沢大学留学センター長）

大学教育の国際性を担保する英語で専門教育を教える授業が必須となってきている現状をふまえて上記セミナーが開催された.

中井俊樹先生（名古屋大学高等教育研究センター准教授）の基調講演の中で英語による専門教育を開講している大学が日本でも増加しており，更に，英語を用いた授業だけで卒業できる大学も増加していることが示された．名古屋大学における英語を用いた授業のノウハウを共有するために出版された「大学教員のための教室英語表現３００」に関する紹介がなされた.

金沢大学の事例報告３件のうち，Ertl John Josef 先生と結城正美先生の報告では英語を学ぶのではなくコミュニケーションツールとして英語を使用するのを学ぶことに主眼が置かれているのが印象に残った．語学を専門として学ぶことが目的ではない大学における語学教育のあり方について再考を促すセミナーであったように思う．英語を国際標準としてのコミュニケーションツールとして捉え，完璧な英語を目指すのではなく，英語を使ってコミュニケーションをできるようにすることを目標としている点に注目したい．また，中山譲二教授の報告は工学系の修士課程の大学院生を対象とした英語による専門科目の教育であり，参考になる事項が多々あった．英語による授業のきっかけは日本語能力の非常に低い留学生が受講したことがきっかけであったが，日本人学生からも好評であったことから

続けておられるとのことであった．英語による講義であるが故に授業で話すことができる内容は日本語で話すよりも少なくならざるを得ないので，内容が厳選されるとともに説明が丁寧になったそうである．また，学生は英語を聞き取ることに集中しなければならないので私語が非常に少なくなったとのことである．また，授業でカバーできない部分はテキスト（英語で作成）を充実させているとのことである．また，英語による説明後，日本語による要約をつけることで，単に日本語で話して流すよりも学生の理解度が良くなっているとのことであった．中山先生のお話は日本語の授業を実施する上でも大変考えさせられるものであった．

2.5 学術教養センター

学術教養センターにおける本年度のFD 活動は，昨年度同様に，授業評価・授業公開・研修活動において活発に行われた．以下，授業公開と研修活動について報告を行う．

2.5.1 授業公開

学術教養センターでは，以下の合意に基づき，全ての授業について原則「常時公開」の方針が確立している．

「授業公開」に関する合意事項

・公開方式について特に希望がなければ，すべて「常時公開」とする．
・参観希望者は必ず事前に参観の連絡をとる
・常時公開にそぐわない，あるいは常時公開をしたくない授業は，「非公開」または「日時指定に　　よる１回ないしは数回の公開」を選択できる．
・非公開を選んでも，参観したいと申し出る教員がある場合は，個別に交渉に応じる．

この方針の下，前期95科目，後期105科目を授業公開対象とした．このうち，前期6科目，後期1科目について授業参観が実現したので，以下「授業公開」の報告をする．

前期：６科目

6月2日1限　情報処理A

授業公開調査票

日　　付：　6月　2日　1限

参観授業名：　情報処理 A

担当教員名：　菊沢　　先生

参観教員名：　徳野淳子

所属部局：　学術教養センター

授業公開にご参加いただき，ありがとうございます．以下のガイドラインに従って授業を参観後，検討会に積極的にご参加ください．

【授業公開ガイドライン】
（１）授業の方法・工夫に注目する
（２）積極的に意見を交換する
（３）授業の内容に立ち入った議論・批判は行わない
（４）授業の障害にならないよう配慮する

今後の FD 活動の参考にさせていただくため，調査票への記入にご協力ください．調査票

は本授業の終了後に担当教員までご提出ください．授業公開と検討会の内容，調査票などでいただきましたご意見は，後日報告書としてまとめ，教員のみなさんにお配りする予定です．

（1）参考になった点について，お書きください．

- 授業の開始前に本日の実施内容，時間配分を合わせて黒板に明記していること，また，授業中に演習が終了した箇所には，チェックマークを付けていることが，受講者にとっても分かり易くて良かったです．（今教員がどの部分を説明しているかがよく分かる．）
- 最後尾の席に座りましたが，黒板の文字も良く見えました．
- 参観した日はちょうど試験の翌週でしたが，試験の講評時に，点数の低い学生に対してもドロップアウトしないように配慮しながらコメントされていると感じました．
- BbLS の様々な機能（詳細なコンテンツ，カレンダー，成績の表示など）を十分に活用されていると思いました．
- 本日学習した内容の発展課題を予め用意し，授業の後半は，分かっている学生には課題を行わせ，分からなかった学生には質問時間とし，学生の能力に応じて実施課題を変えている点が良いと思いました．
- Excel の各項目を教える際に，他の授業との関連性を考えて，どの機能が重要か，よく使うかなどの説明を交えながら教えているところが参考になりました．
- 演習内容をモニタに表示させて，学生に読ませている間に見回りをするなど，適切なタイミングで教員が見回りをされていると感じました．
- 演習室の環境から Excel2003 を使った授業でしたが，BbLS に別途 Excel2007 の資料も掲載しており，学生が自宅のパソコンで予習・復習を行う場合への配慮が見られました．

（2）改善の余地があると感じた点について，お書きください．

- 恐らく，私が途中から参加したことも影響していると思いますが，BbLS に掲載されている資料の番号（例題，練習のレッスン番号）と授業実施回数の番号，BbLS に記載されているカレンダーの番号が異なっているので，いきなり参加した人間には BbLS の情報からは当日どこを実施されるのか若干分かりにくかったです．（参観した授業は第 7 回，例題，練習は Lesson4，カレンダーは 5 章）
- 授業の後半に，休憩を兼ねて出席を取られる点は良かったと思いますが，その反面，授業開始 10 分ほどは遅刻してくる学生も何人かいましたので，検討が必要ではないかと思いました．

（3）そのほか，気づいた点・疑問点などありましたらお書きください．

- 45 名程入る演習室に学生が 13 名程，かつ後ろの席ばかりに座る傾向があったにも関わらず，TA が常に「各学生が教員の説明を実践できているか」を確認してくれていたので，授業の最初から最後まで寝ている学生もおらず，皆集中して聞いて

いました．このように，TA が非常に優秀でしたが，TA にも何かサポートの仕方や動き方などを事前に指導されているのでしょうか？

6月11日2限　中国語1

授業公開報告

2009.7.31　報告者　亀田 勝見

公開日：2009 年 06 月 11 日 2 限（10:40-12:10）
授業名：「中国語Ⅰ」（担当：亀田勝見）
参観教員：大武先生，北村先生，徳野先生
出席学生：30 名

参観者の報告

参考になった点

・授業で使用している教科書にイラストが多く，初心者にとっては取り組みやすくて良い教材だと思いました．
・LMS に授業の内容以外にも，独自に作成された発音学習用の教材や，エンターテインメント情報を掲載されており，LMS をとても効果的に利用されていると思いました．
・中国語の発音について，隣の席に座る友人同士で練習する時間（ペアレッスン）を設けており，これが学生にとっては，良いリフレッシュタイムになっていると思いました．
・授業の最初に小テストをすることで，遅刻者が全くおらず，効果的だと思いました．
・休憩の時間を設けて，その中で中国語の歌のライブ映像を流す点が面白いと思いました．
・適宜，ペアレッスンを設けたり，授業の中盤に休憩時間を設けたりすることで，教員が学生の集中力をうまくコントロールできている点が大変素晴らしいと思いました．
・学生を指名するときに，中国語で名前を呼ばれている点が面白かったです．（こうすることで，学生はそれを聞き逃さないようにするために，集中力が増すように思いました．）
・良く準備がされている．
・一連の流れが確立されており，学生との了解が成立しているので，効率が良い．
・熱意が伝わるので学習者側の態度が真面目で熱心
・単調にならないよう，対話練習，休憩用音楽挿入など，工夫がある．
・発表もあり，適度の緊張感があり良い．
・発音明瞭で，声量もあり，話が聴き取りやすい．
・板書を２色のマジックペンで書き分けるのは，メリハリがあって良い．
・全体的に語学の良さを活かした大変楽しい授業でした．
・授業の章立てが明快で，各章（パート）の時間も短く，学生の集中力が落ちないように工夫されている．

・全体的に言って，長年の経験に基づいた完成度の高い授業だと思われた.

改善の余地があると感じた点

・私が最後尾の席に座ったためだと思いますが，黒板（ホワイトボード）に書かれた文字が所々少し薄く見にくく感じました.
・解説がよどみなく進行するので，少し間合いの工夫があるとより効果的かなと思った.

その他コメント

・学習者の意欲・集中力を保持させているのは何か？
・CD の利用法は？　教科書に付属しているので，各人が所有している？

授業担当者コメント

評価してもらえた点について

他の授業にも当てはまることかも知れないが，ハードルを一つ一つ越えてスキルを蓄積していく必要のある語学教育では特に，授業中における適度なインターバルと作業内容の適度な切替による気分転換を行い，集中力や学習意欲の維持に心掛けねばならない．そのために，現在の授業方式に落ち着いている.

90 分の授業なかばで休憩時間をはさむのは，授業後半になるとどうしても落ちていく集中力を回復するために行っているが，これは数年前に他の先生の授業を参観した際に学んだ方策である．しかもそこで紹介している映像なり音楽なりが，中国現代文化の紹介になっているため，学習者からは毎年好評を得ている．ただ，この休憩時間で紹介する内容の選定に時間を割くため，授業の準備に時間をとることは否めない.

その他，小テストの実施，LMS の利用，ペアレッスンの時間など，いずれも参観者に評価してもらったとおりの狙いがあり，その狙いは今のところうまく行っている．ともすれば学生は，普段は授業に出席するだけで復習もせず，期末テスト直前になって集中的に勉強し直すという，学習効果の大変薄い勉強法に陥りがちである．そのため，「日頃から授業以外の時間に復習する動機と機会」を多方面から与えようと思っている．LMS 上の Web 教材についてはもっと充実したいのだが，準備する時間の不足により満足するには至っていない.

改善点であるが，ホワイトボードの文字が薄くて見にくいという点は，常々自覚している．マーカーは線の細さやインクの出が刻々と変化するため，文字の見やすさをコントロールしにくい．その点，「黒板にチョーク」がよいと思うのだが，目の前の電子機器に粉が舞うのはよくないとのことで，昨年ホワイトボードに置き換えられてしまった．ホワイトボードにおける板書テクニック向上を，今後の課題としたい.

話し方については，やはり少し早口であることを自覚している．どうしてもおぼえておいてほしい要点についてはゆっくり強調しているつもりだが，その他の部分では聞き手のペースに合わせていない面がある．今後も注意していきたい.

その他のコメントにある質問に関して．「学習者の意欲・集中力を保持させている

のは何か？」という問いには，技術的な側面と精神的な側面の両者が問題となっていると思われる．前者については省略するとして，後者については所謂「教える側の熱意」であろうか．正直なところ自分でもよく分からない．

次の CD 利用に関する点だが，これは学生個々に購入した教科書についている CD であるため，各人が所有している．この学習用 CD が大変役に立つため，この教科書を採用した．

好意的な評価をたくさんいただけたが，学習段階の面で一番教えやすい時期に授業公開を行ったためでもある．学習初期などは発音練習ばかりなので，今回のようなテンポの良さ，切替のうまさは発揮できないと思う．そのような場合にどういった工夫を行うべきか，が今後の課題であると思う．参観者の方々には改めて感謝したい．

6月12日2限　英語Ⅱ（初級・Reading)

授業公開報告

2009.9.25 報告者　大武　博

公開日：2009 年 6 月 12 日 2 限（10:40-12:10）
授業名：英語Ⅱ（初級・Reading）
担当：大武　博
参観教員：徳野先生，国村先生
出席学生：34 名

参観者の報告

■参考になった点

- 授業中，終始見回りをされていたので，学生にとっては前列に座ろうが後列に座ろうが一切関係が無くなっていました．また，これにより学生が質問をし易い環境が築けていると思いました．

- 上記の行動がうまく作用していると思いますが，本授業では，教員と学生との距離が非常に近く感じました．また，少人数クラスでもないのに，先生ご自身も受講生の個性や能力を把握されているように感じました．

- 授業では，ライフサイエンスという英和辞書機能（入力した英文に出てくる単語をいちいち辞書引きしなくても，マウスオーバーで英単語の訳を表示してくれる）を持つサイトを利用されていました．これに関しては，「知らない単語を文脈から推測する能力が養われないのでは？」とのデメリットも考えましたが，初級のクラスを受講す

る学生が覚えている英単語数を考えますと，こういった方法をとることで，英文に対するハードルが低くなり，効果的に働いていると思いました.

- 学生に熟語の意味を質問された際に，分かり易い具体例をあげて説明されており，とても良いと思いました.

- 授業の最初に出席をとっていること，また，授業の内容を小テストとして提出させていることから，遅刻者がおらず，学生も終始静かで授業に集中していました.

- 授業で使用されている教科書が，とても分かり易い英文で，かつ内容も面白く，非常に良い教材を使用されていると思いました.

- インターネット上の生きた英語素材を教材に利用しているので学習者の興味を引くと思いました.

- オリジナルの設問を設定することで，授業の焦点を明確にし，課題に取り組ませている手腕が素晴らしく，大変参考になりました.

- 学生が集中して授業を受けているのがよくわかりました.

- 学生が読解作業に集中している間，机間巡視をしながら，個別の質問に対応している手法が大変参考になりました.

■改善の余地があると感じた点

- 複数の学生から同じ質問があった場合の回答や，授業で学生に出題した問いの答えを，口頭で説明するだけではなく，黒板にも書いた方が，受講者には親切ではないかと思いました.（授業に集中させるために，わざと書かないということもあるかと思いますが.）

- 初級Readingでしたが，1コマで学生にかなりの英文を読ませているように感じました. 学生自身は終始授業に集中していましたが，初級ということで，英語嫌いの学生もいることを考えますと，途中で休憩時間を入れてもらえると学生にとっては良いのではないかと思いました.

■その他コメント

- インターネットのWebsiteは優れた英語教材の宝庫だと改めて気づかされました.

- 指導教官のパソコンのスキルの高さが，学生に寄与する部分が大きいと感じました．

- 授業の内容ではなく，ライフサイエンス辞書についての質問です．（先生が関わっておられるプロジェクトと伺いましたので…）現在は，単語の意味のみ表示されるようになっていますが，あの機能を拡張して，マウスで選択した部分の熟語の意味を表示したり，1センテンスを選択すると翻訳画面に移行したりという風にはできないでしょうか．（Yahoo!のTOEICサイトなどはこのような仕様になっていたかと思います．）もちろん，学生が授業で使用する場合には，翻訳機能などは使用不可にする必要があると思いますが，授業中に，熟語の意味に関する質問が多かったことを踏まえますと，そのような機能があれば，学生にも便利なのではないかと思いました．（既に該当する機能がありましたら，失礼しました．）

- ライフサイエンス辞書を使用しているにも関わらず，授業中に別の辞書サイト（goo）を閲覧している学生がいました．これには，上記のようなこと（ライフサイエンス辞書だけでは機能不足など）が影響しているのでしょうか．

- 本授業だけではなく，Readingの授業全般に関しての意見になります．本日の授業を拝見する限り，Readingの授業は，自分で与えられた文を読む時間が多く，それなりの集中力が必要になるかと思いました．その点を踏まえると，時間割りを編成されるときに，学生が集中し易い時間（3限や4限）に設定されるのが効果的ではないかと思いました．（本授業に関しては，その通り，3限に開講されていますが，その他，1限に開講されている授業もあるようですので．）

授業担当者のコメント

■反省点と収穫他

大学にて教鞭を執り始めてから相当の年月を過ごしてきたが，今回のように受講学生以外の方々に「公開授業」という形で授業参観をしていただくことは初めての体験であった．授業終了後にいただいた感想・改善点などは，ともすると独善的になりがちな授業内容・方式を再検討し，改良するための良い契機となった．長年心地よい授業形態を探る中で，試行錯誤の末，ここ数年は「積極的に教えない授業」方式を採用してきた．教師は一方通行的に教えすぎているのではないか，あるいは教えた（話した）ことは全て漏らさず学習（吸収）されるという思い込みをしていないか，などという思いに対し，私なりに受講学生から「積極的な学習」を引き出すために，受講生からの質疑中心に授業を展開する方式を採用している．この授業形態に一旦馴染み支持する受講生にとっては「みずから疑問点をみいだし，積極的に質問し学習する授業方式」は，それなりに功を奏しているのではないか，と思っていたところで今回参観者の方々から客観的な視点で，授業観察をしていただくことになった．以下，反省点・収穫など箇条書きにする．

- １コマの授業で読む英文量としては，対応しきれない学生がいるのではないか，というご指摘がありましたが，学習者の英語力は非常に個人差が大きく，全員に同じ量の英文を課題提示するのは難があります．特に，本授業では，教科書は自宅学習素材（定期試験の出題範囲）であり，授業当日は教科書の題材ではなく，全く未知の英文に遭遇し読むことを求めており，個人差への対応が必要となります．授業で扱う課題英文はやや多めにし，能力の高い受講生が退屈しないように配慮するとともに，全体としてまとめるときには，冒頭から全員が読了したと思われる部分までを区切り共通課題（定期試験の出題範囲）として設定する工夫をしております．

- 未知語に遭遇しても，逐一辞書に依存せず文脈から類推して読むのが望ましい，と英文快読のための技法の指摘がありましたが，未知語の意味を文脈から類推するためには，未知語の混入率が極めて低い場合に適用できる方式であり，本授業で採用しているインターネット上で公開されている自然な英語（アメリカの新聞紙上の記事）を読む場合には類推方式の採用は難しいのが実情です．受講生の語彙力の不足が大きな障害になっている点を考慮し，電子辞書（単語日本語対訳付記システム，オーバーマウスでの訳語表示）を利用することで，未知語に起因する英文読解の際の障害・抵抗感を除去し，できるだけ多量に生きた英文に出会う（読む）ことを求めています．少量精読方式ではなく，多量味読方式で未知語との遭遇を繰り返す中で，語彙力が伸びることを期待しています．語彙力は個人差が大きく，印刷媒体で供給される教科書の語注については，学習者の個別ニーズには対応しきれないのが難点だと思っております．一括してはほぼ全ての単語に対訳を付記するシステムを利用することで，学習者が必要に応じて必要な単語の注を参照することができ，効率が良いのではないかと思っております．

- 板書の利用など，こちらから発信する情報の効率的な提示の仕方については，ご指摘の通り改善の方策を探りたいと思います．後期の授業からは，Moodle（あるいは今回新たに投入された新しいシステム）を利用して教材の配信，小テストの答えの回収，質問に対する答えの提示など，効果的で効率の良い方式を探りたいと考えております．

- 息抜きとなる休憩，時間割りの配置の工夫などについて提言がありましたが，学習は本来非常に個人的な活動だと思っておりますので，本授業はいわゆる講義科目ではなく自習の色彩の強い授業方式を採用しており，適宜個々人が息を抜くことをしているのではないかと拝察しています．また，時間割りの配慮につきましても，他教科との兼ね合いがあり対応が難しいのではないかと思っています．

- ライフサイエンス辞書プロジェクト（http://lsd.bioscinet.org/ja/）が提供するライフサイエンス辞書以外の辞書を学生が参照しているのが散見された，という指摘がありまし

たが，利用しているシステムでは生命科学分野に特化した辞書につきましては改善・改良を重ねて充実していますが，一般辞書については多少貧弱です．受講生には，手持ちの（電子）辞書を持参することを求めており，必要に応じて必ず手持ちの辞書で文脈に相応しい意味を探ることを基本姿勢にするよう指導しております．

貴重な時間を割いて授業参観にお越しいただき，有益なご意見をいただきましたことに対して，徳野先生・国村先生には，深く感謝申し上げます．

7月2日4限　情報基礎演習

授業参観報告

参　観　日　　7月2日（木）14:40〜16:10
検　討　会　　16:15〜17:00
参観授業名　　情報基礎演習（必修科目）
担当教員名　　学術教養センター　徳野淳子先生
対象学生　　経済学部1年生（39名）
参観教員名　　学術教養センター　菊沢正裕

（１）参観者の報告（菊沢正裕）

○同じ授業を担当しており，次の点で有意義な参観ができた
- 授業中の学生の様子を全体的に把握することができた
- 学習内容のレベルや最適な教授スピードを考えるうえで有効だった

○教授法でよいと思われる点
- 赴任1年目とは思えない教授力
- 授業そのものが，うまくオーガナイズされている
- 教材に忠実でありながら，必要な改良を加えている
- 複数の操作を教えず，その場で最適な操作だけを教えている
- 手際よく，教えるべきスキルは，すべて教えきっている

○共通教材（5人の教員が10クラスを担当）の補充
- 実用的なチップスを加えて教授している（色設定の自動機能など）
- 具体的な事例を効果的に追加して説明している

○工夫
- サブトピックを明示し，頭を切り替えさせている

- マーカーの使い方がうまい
- 興味を抱かせる工夫が数多く見られる

○学生の様子

- 30分で，他の作業をする人が3,4人．ただし，要領よくマルチウインドウをつかって作業している
- ほとんど全員が先生の操作や説明を見失っていない点は，すばらしい←これまでの授業で十分信頼を得ている様子．あとの検討会で，平生は数人が勝手なことをしているが，今日は参観者がいたので行儀よかったとのこと．思わずところに，参観の効用があった．
- 私語もないが，60分を過ぎるとちょっと集中力がかけ疲れた様子が窺えた
- 一緒にする作業には，よく反応する．←どこまで自主的にさせるかに，検討の余地あり

○改善

- メリハリがほしい．←授業の流れからすると，今回だけのことと思われる
- 休憩が必要か．←60分くらいで，完全な休憩が必要
- 自習時間がもう少しほしい←授業の流れからすると，今回だけのことと思われる

○授業方法についての議論

- 細かい画面説明や概要のまえに演習作業をさせ，その作業のあとに説明をする．そののち作業にもどり，Q&Aを行うという手順は，基礎力のついた演習の後半では効果的ではないか，といった話を検討会で行った．
- 具体的には，演習前半は，説明→演習→Q&Aとし，後半はでは，演習→説明→課題→Q&A
- 内職で課題をさせない方法として，授業中に課題をする時間をつくる．課題で質問を引き出す工夫もある．

（２）公開者のコメント（徳野淳子）

今回，本授業と同じく情報基礎演習を担当されている菊沢先生にご参観いただいたこともあり，一般的なご意見だけではなく，授業内容に関することまで伺うことができました．お忙しいところ，ご参観いただき，ありがとうございました．

私自身，この4月に着任し，また授業を公開させていただくのも初めての経験でしたので，正直なところ，いつもより授業の進行速度が遅くなるなど若干様子が異なっていたのではないかと思っております．また，学生もいつもと少し様子が違うように感じました．そういった点で，評価いただいた内容については感謝致すところではありますが，自身で，本日といつもの授業などの違いを踏まえて，より良い授業方法について検討していきたいと思っております．

以下，いただいたご意見についてコメント致します．

- 授業中の学生の様子（特に，私がパソコン画面を操作しながら説明している最中の様子）については，これまでなかなか伺い知ることができませんでしたが，今回，ご報告いた

だき，大変参考になりました.

- 上記に関連して，授業のスピードや内容を，学生がどのように思っているか，どの程度理解しているかについても，日頃十分に把握できていないところがありましたので，ご報告いただき，大変参考になりました．特に，Advancedクラスの学生については，クラス内でもパソコン操作の習熟度に差があり，授業の進行速度や，内容をどのようにすべきが日々考えておりました．そのため，今回いただいたご意見は今後の授業の設計に，是非役立てたいと思っております.

- 改善点として挙げていただいた，「自習時間」，「休憩時間」，「メリハリ」はご指摘の通りだと思います．「自習時間」については，通常，課題を出した翌週に30分程設けております．ただし，ご指摘の通り，これまでの学生の様子を見ていますと，ただ説明を聞くよりも，手を動かした方が，授業への興味がわくようですので，今後，課題以外の自習教材の作成などにも取り組みたいと思っております．また，開始60分程度で「休憩時間」を設けないと学生の集中力が続かないというご意見もご尤もだと思います．今回の演習では, 学生に各操作を行わせる際に, 少し多めの時間を設けておりましたので, それを休憩時間に割り当てているつもりでしたが，ご指摘いただいた内容を踏まえますと，今後は明確な休憩時間を設定したいと思います．「メリハリ」については，上記の「自習時間」，「休憩時間」を設けることで，出てくると思いますので，そのような時間を設けながら，また別の工夫も検討していきたいと思います.

- 本授業は5名の教員が実施しているということもあり, 教員によって授業の内容や方法が異なることは以前から気になっておりました．そのため，この度，「授業方法についての議論」として挙げていただいた内容は，他の先生の授業の進め方やBbLSの使い方を知るうえで，大変参考になりました．この点は，今後担当教員間でも議論してみたいと思っております.

- 最後に，授業公開についての意見として，冒頭に書きました通り，改めて授業参観という形式をとりますと，学生もいつもと違う様子になるようです．そのため，今後は参観形態も検討していく必要があるかと思いました.

7月7日5限　美学

授業公開報告

2009.9.30 報告者　北村知之

公開日：7 月 7 日５限
授業名：一般教育科目「美学」

担当：北村知之
参観教員：徳野先生
出席学生：58 名

参観者の報告

1） 参考になった点

通常，比較的大人数かつ 5 限の授業となると，学生の集中力が欠如しやすくなりがちですが，本授業では以下のような工夫から，終始私語もなく，学生の集中力も保たれているように感じました．以下に，参考になった点を示します．

a. 授業の中間に設けている休憩時間がとても効果的に働いていると感じました．このような休憩時間を設けられている授業は他にもあるのですが，本授業では，この間に学生の退出（トイレ休憩）を許可されており，これには非常に驚かされました．確かに，90 分間集中力を維持するのは大変なことですし，こうすることで休憩前と後で学生の集中力が明らかに違うと感じました．また，授業の冒頭で「前半は 17 時まで行います．」と明言することで，学生も「それまでは集中しよう．」という気持ちになっているのではないかと思いました．

b. 全体を通して，絵画などの視覚教材が多く，また，難しい内容を説明する際も，アニメや漫画など学生に身近な具体例を出されるなど，学生の興味を引くように授業を設計されていると感じました．

c. Power Point のスライドを学生に見せる際に，一つのスライドを長時間見せたり，短時間で切り替えたりと工夫があり，また，話し方や声の大きさも所々変えられており，これにより授業にメリハリが出ていると感じました．

d. 本授業では，Power Point のスライドと合わせて，重要事項を空欄にした同じ内容のプリントを学生に配布されていました．単なる一枚のプリントですが，周りの学生を見ていますと，その空欄箇所に入る語句や，Power Point で色分け表示されている箇所を見逃さない（聞き逃さない）ようにと，その部分は特に集中しているように感じました．通常，Power Point を使った授業は，板書に比べ，学生の集中力が切れやすいですが，こうしたちょっとした工夫でその問題が解決できるということが大変参考になりました．

e. 授業の最後に学生に向けて本授業の主題に関する問いを出題し，それを出席として提出させており，上記のプリントの空欄と合わせて，こういった工夫が学生の集中力維持に役立っていると感じました．

（２）改善の余地があると感じた点

a. 細かな点で恐縮ですが, 最後尾の席からは 1 枚目の PowerPoint の文字が若干読みにくかったです.

b. 後半の授業にいきなり参加したためだと思いますが，どこまでが前回の復習でどこからが今日の授業の内容なのかが少し分かり難いように思いました.

（３）その他

先生と学生の距離が近く，また，先生が担当されている他の授業を受講したのをきっかけに，先生の授業を好んで出席する学生も多いとのことで，私自身もそのような授業を行える教員になりたいと感じました.

授業担当者のコメント

本来は 90 分間学生が集中力を維持できる授業を工夫すべきと承知していますが，多くの学生にとっては大教室での講義を 90 分間聴き続けることはかなりの苦行らしく（私自身が学生時代そうでしたし），また実際に途中休憩を入れることによって学生たちの気力が回復しているようなので，近年はこういう形態での講義を続けています.

1)-b 以下ではいろいろと肯定的なコメントをいただき，恐縮しました. それらはこちらが特に意識していなかった点でもあり，また指摘されたほどの効果を発揮しているとも思っていませんでしたが，そうしたコメントが該当する学生がいるのであれば幸いです.

また文字の大きさや前回分の復習などについては，以後注意しております．有益な御意見，有り難うございます.

なお蛇足ながら，その後の学期末試験では，いくら授業が静かで学生もその時間は集中しているかのように見えても，結局，試験においては点数が上下に正規分布してしまいます．これは，個々の学生の能力差にも起因しますが，講義で扱ったテーマについて後で思いかえし考えてもらわなければ知識も思考力も身につかないということでもあります．学生にはそれを期待したいところですが，全員にそれを求めるのは無理な話でしょうか.

7月9日1限 東南アジアの文化と社会

授業公開報告

津村文彦（学術教養センター）

公開日：2009 年07 月09 日 １限（09:00-10:30）
一般教育科目「東南アジアの文化と社会」（担当：津村文彦）
参観教員：大武先生，北村先生，徳野先生，中村先生
出席学生：90 名ほど（登録者154 名）

1. 参観者の報告

1-1. 参考になった点

・ Keynote のスライドや学生への配布プリントを用意するだけではなく，写真や動画など

の視覚教材も多くに取り入れられており，教材の質・量ともに大変素晴らしいと思いました．

・本授業では，先日参観しました北村先生の授業と同様に，教員が使用するスライドと合わせて，重要事項を空欄にした同じ内容のプリントを学生に配布されていました．前回同様，こうすることで学生の集中力が維持されている効果を実感しながら見ておりましたが，授業後のお話で，「プリントに書くという作業をやらせることで，学生自身も勉強した気になる」と伺い，なるほどと思いました．

・「今からDVD の映像を見せます」と先生が言った瞬間，集中力が切れていた学生も集中し始めたのには驚きました．このことからも，視覚教材がいかに有効であるかが分かり，大変参考になりました．

・一つ一つの用語を説明される際に，その詳細や背景を詳しく話されていて分かり易いと思いました．（ただ，説明が長い場合は，黒板などに書いてもらうとさらに分かり易くなるのではないかと思いました．）

・大人数講義で生じ易い学生とのコミュニケーション不足の補助として，授業の感想や質問などを書きこむための掲示板をLMS 内に設けておられるなど，LMS を大変効果的に利用されていると思いました．

・本授業のLMS を拝見させていただいて，一番驚いたのは学生からのコメントです．LMS に学生が自分から書き込みをするというのはあまり見たことがなかったのですが，本授業では，学生の積極的な書き込みがあり，まずそこに驚かされました．また，学生が本授業を絶賛している書込みもいくつかあり，学生からも評判がいいことを伺い知ることができました．

・授業の出席として，最後に学生に課題を提出させていましたが，この課題の内容がとても面白いと思いました．（今回の課題は「自分がベトナム人（月収1 万円）ならいかにして15 万円のバイクを買いますか？」）

1-2. 改善の余地があると感じた点

・上記の通り，空欄のあるプリントを用いるのは大変効果的だと思いますが，北村先生の授業との相違点として，本授業ではスライドとプリントの内容が全く同じになっていました．先生それぞれにお考えがあることと思いますが，私個人としては，この場合は学生が単に書き写すという作業しかしなくなる傾向があるので，何が空欄部分に入るのかを考えさせるような作りにした方がより効果的ではないかと思いました．

・恐らく部屋の明るさの問題だと思いますが，DVD の映像（画面が暗いところは特に）が少し見えにくかったです．

・具体的な写真を学生に見せている点は本授業の良いところだと思いますが，写真が多く，また，一つ一つの写真を見せる時間が短いことも影響してか，どこに注目すれば良いか，先ほど見た（似たような）写真とどこが違うのかが少し分かりにくかったです．

・授業経過後50 分ほどでかなりの学生の集中力が切れていた．なんらかの工夫が必要．

・教室後ろの方でしゃべっている学生がいるので，もう少しケアする方がよい．

・授業開始後でも入ってくる学生が見受けられる．静かだったので問題はないと思うが，

あまり多いと他の学生が集中できない.

1-3. そのほかの気づいた点・疑問点など

・とにかく，教材の準備といい，授業外での学生へのサポートといい，先生が授業にかけられる熱意にただならぬものを感じました．それと同時に私自身も見習わなければと痛感しました.

・今回のDVD の放映時間はいずれも，10～15 分程度でしたが，周りの学生を見ていますと，5 分程度でまた集中力が切れていました．これが，学生がよく利用している動画サイトのYoutube のコンテンツの時間とほぼ同じであり，とても興味深いと思いました.

・私自身，学生時代に世界史が苦手だったことを踏まえてコメントさせていただきますと，世界史が苦手な学生は，様々なカタカナ用語を見せられるとまずそこに抵抗を感じてしまうと思います．また，それとともに，「テストに出るので，覚えなければ」というような考えになってしまい，それよりも重要な歴史の流れや個々の出来事の内容にまで興味が持てなくなるのではないかと思います．この点は，恐らく，高校までの教育方針に問題があり，本授業のみで解決できる問題ではないのかもしれませんが，大学に入るまでは世界史が苦手な学生にも興味を持てるような工夫があれば，是非していただきたいと思いました．このような学生であっても，不思議なことに，同じ複雑な名前がゲームや漫画に出てくると覚えられるということもありますので.

・本授業に限らず，全ての講義に言えることですが，どの講義にも，必ず2 割程度，モチベーションの低い学生やただ単位が欲しいだけの学生がいます．このような学生への対応（興味を持つように教員側で努力をするのか，それは学生自身の問題として興味のある学生のみを対象にして授業を進めるのか）については，先生方で考えが異なり，今後自分はどのような方針で行うべきか考えさせられました.

・今回のような課題はどのように点数を付けるのか.

・授業の準備にはどれぐらいの時間をかけるのか.

・考える作業は？課題学習は？と思っておりましたら，最後に準備されており，なるほどと納得しました.

・情報量が多く，語学に例えると，未知語が非常に沢山埋め込まれた教材を扱う難しさに似ているかと，思いつつ参加させていただきました．それで，プリント配布，画面で確認提示という工夫をされていたのだと納得しました．大局的な解説もありましたから，森を見て木を見る，また木を見て森を見る，という両方の視点が培われるとよい，と思いました.

2. 授業担当者のコメント

過去に３～４回ほど「授業公開」をしていたので，もはや改善点はないだろうとは思っていたものの，結果的には新たに気付かされた点，気付いてはいたものの直視しなかった点を参観の先生方からご教示いただくことができ，得られた結果が大きかったことに驚いた.

ご指摘いただいたいくつかの点についてコメントをしたい．まずは配付資料に関して．私の授業の配付資料は，おそらく県大のあらゆる授業の中でももっとも情報量が多い資料

だという認識はある．いくつか空欄を入れ，そこに学生が書き込みをしながら授業を進めるという形態を取っているが，この資料が，あまりに丁寧だという指摘も理解できる．あえて「不親切」な資料を作成し，学生は教員の発言を聞き取りながら，自分なりのノートを作成するというのは重要な作業であり，その過程で学生自身が情報を取捨選択する技法を身に付けたりすることもできる．だが，その場合，伝えられる情報量が減るうえ，学生の理解度に大きなばらつきが生まれる．ある程度の平均的に大量の情報を伝えることを念頭に置くのであれば，現在のやり方の方がより良いだろうと考え，一般教育科目という性格からも，現在はこの方法を採用している．とはいえ，県大の授業の全てが私のような進め方をしているわけでもないだろうから，ノート作成の技法は他の授業においてカバーされているものと考えている．

二点目としてスライドの写真の見せ方について．画面が明るいところがあるために，一部見づらいところがあるという点については，現在はスライドを映写するために，授業中は黒板と教室前面の照明を落としているが，それでもまだ写真によっては見づらいようであった．授業を進める側としてはあまり気付かない点でもあるので，今後は気をつけたい．また写真によって次々と進んでしまうので，前の写真との違いがわかりにくいところがあったという点についても，もう少し丁寧な説明が必要であるということに改めて気付かされた．資料を作っている立場としては，当たり前に見えているところでも，そうでない立場に身を置いて意識的に進行を遅らせる必要を感じた．

授業中盤に多くの学生の集中力が切れていたというご指摘も確かにその通りでした．今回の授業テーマの性格もあったかと思いますが，カンボジアの王名が多く出てくると，そこに日常的なリアリティを感じとることが出来ず，説明の世界に没入できない．そのために眠くなって，ぐったりとしてしまう．授業の中盤ぐらいでそれが著しく見受けられました．中盤あたりで，なにか舞台が代わるような工夫が必要だというご指摘をいただきいました．たとえば，何人かの先生は，45 分あたりで「休憩」を入れられているとのこと．今回の授業ではDVD の映像を見せるときに学生の集中力は戻っていたようですが，DVD が終わった途端にまた集中力が途絶えるという様子でした．休憩でなくとも，なんらかの工夫が必要であるというのは痛感しました．

教室後方で私語があったのは，もう少し注意をしながら，教室環境を静粛なものに保つ努力が必要だと感じました．今回少し私語があったことには気付いていましたが，なるべく視線を多くやって，学生を注意するようにしていました．教室右側中段の学生にはそれで通じましたが，教室中央後方の学生は私語に熱中して，私の注意には気付かなかったようです．もう少しはっきりと注意を促す必要を感じました．

いろいろな点について新たに気付くことができ，収穫が多かったです．ご参加いただいた先生方，どうもありがとうございました．

後期：１科目

12月21日1限　情報処理E

授業公開報告

公開日：　12 月 21 日 1 限
授業名：　情報処理Ｅ
担　当：　山川　修
参観教員：　徳野淳子
出席学生：　23 名

参観者の報告：

（１）参考になった点

・本授業では，先生が演習のポイントを説明された後で，中盤～後半にかけて学生が自習形式で課題を作成するという形で授業が進んでいました．そのうち，中盤～後半は先生が各学生の席を周り，とても丁寧に個別指導されており，質問し易い雰囲気が出来ていると思いました．

・地図の作成（詳細には，県立大学周辺の地図でしょうか？），ページ物の作成など，学生にとって身近な題材を演習課題として取り上げられているという印象を持ちました．

・授業の最後に学生が何か文章を LMS に記入して退出しているのが印象に残り，後で先生に伺ったところ，その日の感想や質問を LMS に書かくよう指導されているとのことでした．同様の取り組みは，大講義室などで，紙で実施されている例を良く見ますし，私もそのようにしているのですが，LMS をこれに利用するのは良い取り組みだと思いました．是非，私の授業にも取り入れたいと思います．

（２）改善の余地があると感じた点

・先生が冒頭に演習のポイントを説明される際に，まだ Windows や Illustrator を立ち上げている学生が多く，そのような学生は先生の説明を十分理解できているのかどうか少し気になりました．また，口頭で説明されていることをメモに取ろうとして追いつかなくなる学生もいるようでした．ただし，(1)に書いた通り，その後先生が各学生の席を周り，個々の質問に対応されていましたので，その時間でフォローができているようにも思いました．

・上記に関連して，冒頭に一度に全てのポイントを説明されるよりは，ポイント 1 の説明⇒演習 1⇒ポイント 2 の説明⇒演習 2⇒…（本日の授業の場合ですと，ポイント 1「スキャナで手書き地図の読み込み，Illustrator での表示」，ポイント 2「道路などの線の描写」，ポイント 3「パスに沿って文字を入力」）と言う風にされた方が学生も説明の内容をより理解できるのではと思いました．

（３）　そのほか，気づいた点・疑問点

・本授業で使用した情報演習室Ｉは私も授業でよく使用しますが，教卓から見る場合と異なり，後ろから学生の作業状況を見ると，色々と気付かされる点がありました．例えば，本日参観させていただくことで再認識したこととして，

　　-教員側はゆっくり説明しているつもりでも，必ずしも学生がついてきている訳で

はないので，逐一それを確認する必要がある．

-学生によって能力に大きな差があり，作業の進捗も大きく異なるため，それぞれの能力に応じた作業環境を与える必要がある．

-口頭の説明は聞き逃しなどが生じやすく，適宜，黒板や資料などを用意した方が理解し易い．

などがありました．いずれも本日の授業では，先生が上手く対応されておりましたが，私自身もこういったことを常に心がけて授業をしたいと思いました．

・また，本日初めて気付いたこととして

-隣同士に座っている学生のうち，片方のみ理解している状況でも，相談したり，教え合ったりする学生は少ない，という学生の特徴を発見し，少し驚きました．

-本授業に限らず，演習の授業では，教員の学生に対するサポートが内容理解の重要なポイントになると感じますが，一人の教員がサポートできる人数には限りがあるため，演習形式の受講者数は 20 名程度が妥当，それ以上の場合は TA などを配置する必要があると感じました．

授業担当者のコメント：

前で話をしていると学生がどうそれを聞いているかまでは，なかなか把握することができません．その点，学生からの目線で，改善点を指摘していただき，また，学生の行動をレポートしていただいたことは，今後の授業改善を考える上で，大変参考になりました．特に山川の授業では，できるだけ学生同士の教えあいを推奨することをしておりますが，その効果があまり出ていないということもわかりました．以前，受講学生が多く，貸与している教科書を共有してもらったことがありますが，その際の授業アンケートでは，お互いに教えあってよかったという回答もあったので，意図的に教科書を共有させるなどの方策を考えたいと思います．

貴重な時間を割いて授業参観にお越しいただき，有益なご意見をいただきましたことに対して，徳野先生には，深く感謝申し上げます．

2.5.2　FD研修

以下3件の研修活動について報告をする．

7月8日　導入ゼミ懇談会（第1回）

導入ゼミ懇談会記録

日時：2009 年 7 月 8 日（水）

場所：経済棟 10F 会議室

出席者：（敬称略，順不同）杉村，中村，朝日，フィアラ，田島，宇城，津村，亀田，菊沢，北村，清水，加藤，徳野，塚原，小林，山川，木村，黒田

１．前期の導入ゼミのふり返りと各自の導入ゼミの取り組みの紹介

（１）概して，資料の収集方法，レポート作成法，プレゼンテーションの指導など，導入ゼミで必要項目としてあげられていたものが多くの導入ゼミで行われている．

（２）ただし，テーマと授業方法については，それぞれに異なっていた．テーマについては，多くのゼミにおいて各自の専門分野に関わりのあるテーマで進められていた．中には専門分野に関わるが現代的なトピックを取り上げているゼミや昨今の学生の資質の問題（メディアを見聞きすることの不足）に注目してテーマ設定しているゼミもあった．授業方法については，以下のような工夫があった．

①テーマ設定のさせ方

・教員側から文献を提示し，その中で学習を進めさせていくやり方，２～３のテーマを教員が決めてその中からやりたいテーマを学生に選ばせるやり方，テーマの大枠は教員が決めるが，細部は学生が決めていくやり方（もしくは，ディスカッションを通して面白くなりそうなテーマを学生と一緒に考えていくというやり方）の３パターン．

②学生の学習の進め方

・グループで進めるやり方（ただし，最後のレポートは個人で書かせる）と，個人で進めていくやり方．

③発表の方法

・パワーポイントを使わせるやり方と，原稿をもとに口頭発表させるやり方

④テーマへの関与のさせ方

・テーマに関係する文献や資料を深く読み込んでいくやり方と，テーマを広く調べてまとめさせていくやり方と，その両者がミックスされたやり方

⑤学生の主体性と活動性

・フィールドワーク，グループワーク（役割分担をきちんと決める），学生同士のディスカッションを導入した例や，プレゼンをビデオで録画し学生に相互評価させるといった取り組みが紹介された．また，学生の興味のあることがテーマとなるように，やさしい身近な資料（雑誌記事など）からテーマ設定させる例もあった．

⑥その他の例

・授業時間や進行速度の工夫：課題提示や授業内容が過密にならないように配慮したという意見があった

・プレゼンテーションの時間的な工夫：プレゼン時に時間がない場合は，ポスターセッションで発表させるというやり方もある

・課題の提示方法：課題を１つずつ段階的に与えていく（それらをまとめると最終的にレポートの形になる）というやり方も紹介された.

２．今後の導入ゼミの方向性

（１）導入ゼミの性格と枠組みについて

プレゼンなど技術的なところを中心に教育するという方針でなく，１年生の内に知っておくべき事項や学んでおくべき内容を身につけさせるという方針の方が良いのではないか. 関連して，大学生にもかかわらず，小中学生で知っているべき事柄（例えば，社会・理科の基礎知識）を知っていない，新書などをまともに読めない，などの問題があり，これらへの対処も必要ではないか.

（２）導入ゼミと教養ゼミの関係性について

教養ゼミを必修化するかどうか，および，導入ゼミと教養ゼミとの連携をどうするか（導入ゼミの内容を読み書きとし，教養ゼミでは話す聞くとするについては，今後の継続課題とする.

（３）今後の懇談会について

・他部局の導入ゼミ担当教員も含め，意見交換，授業紹介などを行い，継続的に導入ゼミの方向性を考えていく.

9月28日　導入ゼミ懇談会（第2回）

導入ゼミ第２回懇談会記録

日時：2009 年 9 月 28 日（月）
場所：情報処理第２演習室
出席者：杉村センター長，菊沢教授，北村教授，フィアラ教授，加藤准教授，津村准教授，石原講師，徳野講師，交野副学長，本田教授（看護福祉学部），黒川講師（生物資源学部），松岡講師（生物資源学部），澤崎（仁愛大学，福井高専非常勤講師），山川教授，木村教授，黒田

１．導入ゼミ実践例の紹介

（1）杉村教授による導入ゼミ実践例の紹介

学生が自分の興味のあるテーマを選択・決定し，内容として充実したレポートを書けるようにするためにどのような工夫を行っているか，という点を中心に，授業実践例が紹介された.

（2）石原講師による導入ゼミ実践例の紹介

レポート（最終的に卒論）の作成力の構成要素として，情報収集，文献理解（講読），データ収集と分析，文章執筆などのスキルに注目し，それらのスキルを系統的に指導する実践例が紹介された.

2．ディスカッション

「今後の導入ゼミの内容をさらに向上させるために，現状においてどのような問題点があり，それに対して今後どのような工夫や改善点が考えられるか」というテーマで，参加者同士で議論された.

（1）学生のレポート作成のスキルとレポート内容について

①学生にレポート作成の方法（表紙をつけることやページ番号の記載と行ったレポートの初歩に関することから，レポート構成・引用文献の掲載といった基本に至るまで）を，丁寧に指導しているが，最終レポートをみると，レポートの初歩すら守れていない学生が散見されるという問題.

・レポート執筆の必要事項を教員が講義するのでなく，学生自身に必要なことを気付かせるために，受講学生に過去の学生のレポートを（名前を伏せて）提示し，悪い点・良い点を学生同士で相互評価させるという工夫をとっている．しかし，それにも関わらず，最終レポートで必要事項がもれる学生がいる.
・採点基準を学生に明示し，伝えることで，上記の問題の改善をさらに図ってみてはどうか.

②導入ゼミにおいて，レポートの内容を重視するか，形式を重視するかの問題について

・形式を重視しすぎるのは，形式だけ整っていればよい（レポートは簡単にできてしまう）という考えが学生に生まれ，問題ではないか．やはり，２年生以降のことを考えると，きちんとしたプロセスをたどることでレポートは出来上がるということを学生がきちんと理解し，学生がレポート内容を充実させていこうとすることが必要ではないか.
・形式を重視するにしても，作成手順をきちんと系統的に学ばせ，レポート執筆のプロセスや労力をきちんと学生に理解させていく必要がある.
・一口に形式といっても，どのようなものを想定するかにより，それを重視するのが良いか悪いかが変わってくる．構成や論理性といったものも形式として含め，それを指導す

るようにすれば，ある程度内容面でも良いものとなっていくのではないか.

③レポートの内容やスキルを高めるための工夫の例

・課題として提出された学生のレポートの内，良いものを見本として学生に見せている．学生にとっては，教員から良い見本を示されるよりも，自分にとって身近な人の見本を見せられた方が，内容やスキルの向上の面でも，モチベーションの面でも効果があるのではないか.

（2）プレゼンテーションについて

①プレゼンテーションにおいて「聞き手である学生」の関与や学習効果を高めるにはどうすればよいかという点について

・発表者だけでなく聞き手である学生をプレゼンテーションに巻き込むための工夫が必要.

・石原講師の発表にあったように，評価シートを作成し，プレゼンテーション時に聞き手の学生に発表を評価させるという工夫は，聞き手の関与や学習効果を高めるために有効な工夫である.

・また，発表者だけを決めるのではなく，プレゼンテーションの司会進行役，書記係，質問係などの役割を学生に与えることは，発表者以外の学生のプレゼンテーションへの関与や聞く能力を高めるために有効な工夫である.

②プレゼンテーションの時間の問題について

・プレゼンテーションにあまり多くの授業回数を割きすぎることは，授業進行や学生の学習効果の面で，良くないのではないか．グループ発表にする，あるいは，１人あたりの発表時間を短くするなどの改善が必要ではないか.

（3）ディスカッションの評価の仕方や進め方について

①ディスカッションをしている学生をどう評価するか（どう成績評価に結びつけるか）について

・学生のディスカッションは，学生の「書く」（ライティング）スキルではなく，「話す」（オーラル）・「聞く」スキルを育成し，それを評価する機会となりうるが，ディスカッションにおける学生の発言を，何を基準にして，どう評価するかは，難しい問題である.

・学生の発言を，（授業に対する取り組み）姿勢や授業態度の指標として，回数を評価するやり方をとっている.

・学生の発言を評価する目的により，発言回数に注目するか，発言内容に注目するかが決まってくるのではないか.

・ディスカッションにおける学生の発言は評価に取り入れることはできない.

（4）その他の事項

①レポート執筆にしても，プレゼンテーションにしても，一度で終わるのでなく，複数回することが（レポートであれば，教員が添削し，それを踏まえて次のレポートを作成する，プレゼンテーションであれば，何度かプレゼンテーションをやってみることが），テーマ内容への興味およびレポート内容を高めたり，プレゼンテーションにおけるスキルを高めるために必要ではないか.

②導入ゼミでは，レポートやプレゼンテーションに関わるスタディ・スキルだけでなく，他者の話を聞く姿勢や態度などの面も教育していく必要があると思うが，どうやったらそれを高められるか.

・学生同士のグループワークや相互評価を導入する工夫が考えられる
・ディスカッションで発表者と聞き手だけでなく，司会進行役，書記係，質問係などの役割を決めて学生にさせるといったように，教員側が学生の姿勢を高めるための「枠」を作っていく工夫も必要

③導入ゼミの役割としては，２年次以上の専門教育に役立つということが重要ではないか.

（５）今後に向けて

導入ゼミの全般的な向上に向けて，各教員のノウハウや資料・ツールを導入ゼミ担当教員が共有できる仕組みを作っていきたい.

6月26日　国際大学戦略セミナー2009

国際大学戦略セミナー2009 参加報告

2009.06.29
学術教養センター　山川　修

2009 年 6 月 26 日に，品川にあるホテルパシフィック東京にて，国際大学戦略セミナーが開催され，福井県立大学のＦＤ予算より旅費を支出していただき，山川が参加いたしましたので報告します.

◎招待講演
「学習成果を重視した学士課程教育の構築に向けて：「学士力」提案の背景と各大学の改革課題」
川嶋太津夫（神戸大学大学院教育推進機構教授・国際協力研究科教授）

川嶋先生は中教審で「学士力」をまとめた委員の一人である．その観点から，今後大学教育をどのように変えていくべきかを，「学士力」＝ラーニング・アウトカムという視点から，アウトカムを明確に定め，カリキュラムもアウトカムに沿ったものにし，最終的にそれを測定することにより，達成していこうという方法論を示された．ただ，議論に上っていたのは，各教科のアウトカムとその測定であり，それと，大学ではたすべきミッション（しいては，学生に身につけさせるべきコンピテンシー）との間にはギャップがあるのではないかという疑問をいだき，その旨の質問をしたが，川嶋先生は各科目のアウトカムを積み重ねることにより達成可能だろうという考えで，平行線であった．ただ，話のなかで提案されているいくつかの改革ポイントは，検討に値するものだと感じた．たとえば，教員の所属する組織と学生の所属する組織は別物でもよく，学生が知識やスキルや態度を身につけるために，必要な講義や演習を各教員組織からの出向という形で対処するといった改革等である．

◎海外公演

「How the Blackboard Outcomes System Can Help Cultivate a Campus Culture of Assessment」
Stephanie Oetting (University of Saint Francis, Director of Institutional Research Office of Institutional Research and Effectiveness)

サン・フランシス大学では，大学全体および教育プログラムの評価が，教育の質向上および組織の意志決定において，中心的課題となっている．様々な評価活動を統合した大学全体の有効性（Institutional Effectiveness）評価プランの構築を通じて，評価活動をより効率的に管理するための戦略が必要になっているが，現在までの経験に照らして，様々なノウハウが話されていた．

◎アウトカムズ評価実践報告

日本ではアウトカムズ評価はまだ始まっていないが，そのパイロットプロジェクトとして，岐阜大学と玉川大学が BlackBoard Japan と共同研究を行っている．その経過報告がなされたが，両大学ともまだアウトカムズ評価は始まっていないようである．玉川大学がルーブリックを作成したりして，今年，その端緒をつけようとしているので，来年の発表があれば楽しみにしたい．

加藤直樹（岐阜大学）　　照屋さゆり（玉川大学）

◎招待講演

「我が国の大学の致命的欠陥」

諸星裕（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）

日本の大学がこれからの競争環境を生き抜いていくためには，ミッション（役割，使命）を明確に打ち出し，それを実現する教育をカリキュラムで設計し，その教育にマッチする学生を集め，育てていくということが不可欠であるという主張をされている．大学としては，どの大学でも同じようなミッションではなく，自分の大学の立ち位置を見極めるために，大学のミッションとは何かということを構成員で真剣に議論を始めなければいけないのではないかと感じた．もちろん，ミッションを決めたらそれで終わりではなく，そのミッションに合うように，カリキュラムおよび教育の内容を変更していかなくてはならない．これはかなり大変な作業だと思うが，今始めないと手遅れになるような気がしてならない．

◎パネルディスカッション

講演者全員が参加して，フロアから質問をとり，パネルディスカッションが開かれた．特に目新しい観点はだされなかったので，ここは割愛する．

2.5.3　総括

「授業公開」活動では，参観者と実施者の双方から，学ぶことが多くあったという報告がなされており，成果が上がっていると評価できる．しかしながら，参加者が限定的であるので，どのように活動を広げていくかが今後の検討課題である．

（大武　博）

3. 点検と課題

看護福祉学部　本田 和正

3.1 授業評価

（1）授業評価における重要質問項目の抽出

学生による授業評価は，学習者に向き合って授業を改善する本来の目的のほかに，部局や全学の教育力を継続的に点検する目的でも有用である．しかし学期末に全学一斉に実施する現行の調査には次の問題がある．第1に，マークシート方式では授業ごとに質問を変え学期中にフィードバックができないことである．この解決には，携帯電話のデータ通信機能を利用するシステム（携帯電話システム）が有効である．第2に，組織の教育力をマクロに把握するには現行の多くの質問は向かず質問数を減らす必要がある．そして第3に，履修科目ごとに多くの質問に回答する学生の負担や質問紙の印刷等経費がかかる点である．これら3つの問題は，質問数を減らし，携帯電話システムを利用することによって一挙に解決できる．

そこで，現在までに定着した18項目の質問の中から重要な質問項目を抽出することを目的に，過去5学期分の回答結果を統計的に分析した．その結果，18の質問項目から3つの重要な質問を抽出した．それらは，[教師の質]，[学習者の意欲]，[学習者の充実感]と名付けた構成概念を評価するうえで重要な質問で，具体的には各々「授業を総合的に評価せよ」，「分野への関心が高まったか」，「授業内容を理解できたか」の3つの質問である．この3つの質問に着目して，18の質問に対する経年変化の傾向を調べた結果，この3つの質問で概ね全体の傾向をとらえ得ることが分かった（福井県立大学論集第32号，2009.2）．

そこで今年度，上記の点を念頭に「質問に関する議論」を行った結果，上記3つの質問を含んだ5項目に質問数を限定して2010年度より実施することを決定した．新授業評価アンケートを図１および２に示す（細部のレイアウトは変更になる可能性がある）．新授業評価アンケートの実施により，学生への負担軽減，学期途中での実施等の実現に一歩近づくことが出来ると期待している．

（2）授業評価結果の経年特性

上記の 3 項目についての部局平均値の経年特性を図 3（前期）と図 4（後期）に示す．なお，授業評価は 2004 年度より実施しているが，2005 年以降の質問項目と違いがあるため 2005 年度以降の結果を掲載している．また 2009 年度より海洋生物資源学科が学部化されたため，同学部のグラフを独立させて示してあるが，2008 年度以前のデータは生物資源学部全体のデータ（生物資源学科と海洋生物資源学科を合わせたデータ）を両学部で便宜的に使用していることをご了承いただきたい．

授業の質に関係する「総合評価」は高く，学力に関係する「内容理解」は低く，教師と学生の両者に関係する「関心が高まった」は，その中間にある傾向がある．2009 年度の海洋生物資源学部における「関心が高まった」と「総合評価」が低下しているのが気になるが，後期では低下は見られない．この 5 年間で全般的に授業改善効果は明白に見られ，安

定した値に収束しつつある．

（３）課題

授業評価が実施されて 5 年が経過し，一定の授業改善効果がみられていることは明らかである．しかし，授業評価を実施してもその結果がきちんと生かされていないという批判が学内のあちこちから聞こえて来る．大学としての授業評価の利用は大学全体の教育力の推移を把握することにあり，結果を生かすか否かは教員個人の努力にかかっている問題である．授業評価の技術的な問題の改革も重要ではあるが，教員個人の意識改革をいかに進めていくかが本学ではもっとも重要な課題であると感じる．

福井県立大学
授業に関する調査

質問および回答用紙

この調査は、県立大学が皆さんに提供している教育を、より良いものにしていくために行うものです。あなたが現在受けているこの授業についての調査にご協力下さい。

回答は裏面の回答欄に記入してください。

あなたに当てはまるもの、あなたの意見や感想にもっとも近いものの番号をマーク、記述してください。

記入上の注意

1：選択回答の場合はマークシート記入を、記述回答の場合は対応する空欄に記述をしてください。
2：記入は濃い（B程度）鉛筆またはシャープペンシルで強く書いてください。
3：訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してください。
4：用紙は、コンピュータ処理しますので、折り曲げたり汚したりしないでください。

マーク例） 良い例 02・・・▶● 悪い例 02・・・▶ 02 02 02 02

本アンケートによる（全学、学部別等）授業評価結果は、本学ホームページ上で今学期末に開示予定です。
過去の集計結果は http://www.s.fpu.ac.jp/FD/lecinq.html **をご覧下さい。**

図 1　新授業評価アンケート用紙

学籍番号の上から１ケタ目の数字をマークしてください。

⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨　　例）平成２１年４月入学生・・・⓪

学籍番号の上から２ケタ目の数字をマークしてください。

⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨　　例）平成２１年４月入学生・・・⑨

学部生　所属の番号をマークしてください。

1:経済学部経済学科 2:経済学部経営学科 3:生物資源学部生物資源学科 4:海洋生物資源学部海洋生物資源学科 5:看護福祉学部看護学科　6:看護福祉学部社会福祉学科

7:科目等履修生・聴講生

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

大学院生　所属の番号をマークをしてください。

8:経済・経営学研究科 地域・国際経済専攻 9:経済・経営学研究科 経営学専攻 10:生物資源学研究科 生物資源学専攻 11:海洋生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻

12:看護福祉学研究科 看護学専攻 13:看護福祉学研究科 社会福祉学専攻　14:科目等履修生・聴講生

⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

質問および回答欄

Q1 この授業（課題、レポート、予習復習を含む）に意欲的に取り組みましたか？

①意欲的に取り組まなかった ②あまり意欲的に取り組まなかった ③ある程度意欲的に取り組んだ ④意欲的に取り組んだ

① ② ③ ④

Q2 先生の講義の方法（話し方、板書、プロジェクターの使用、学習支援システム等の活用）はどうでしたか？

①不適切　②やや不適切　③まずまず適切　④適切

① ② ③ ④

Q3 授業中の内容はどの程度理解できましたか？

①理解できなかった　②あまり理解できなかった　③ある程度理解できた　④理解できた

① ② ③ ④

Q4 この授業の分野への関心は高まりましたか？

①高まらなかった　②あまり高まらなかった　③少し高まった　④高まった

① ② ③ ④

Q5 この授業を総合的に評価してください。

①良くない　②あまり良くない　③まずまず良い　④良い

① ② ③ ④

Q6 授業を受けた上での感想（先生の授業への熱意、方法、教材、授業内容はシラバスに即していたか、教室環境など）を良かった点あるいは不備な点について自由に書いてください。

Q6の自由記述欄

Q7 教員設定の質問（別紙参照）

① ② ③ ④

Q8 教員設定の質問（別紙参照）

Q8 の自由記述欄

ご協力ありがとうございました

図　2　新授業評価アンケート用紙

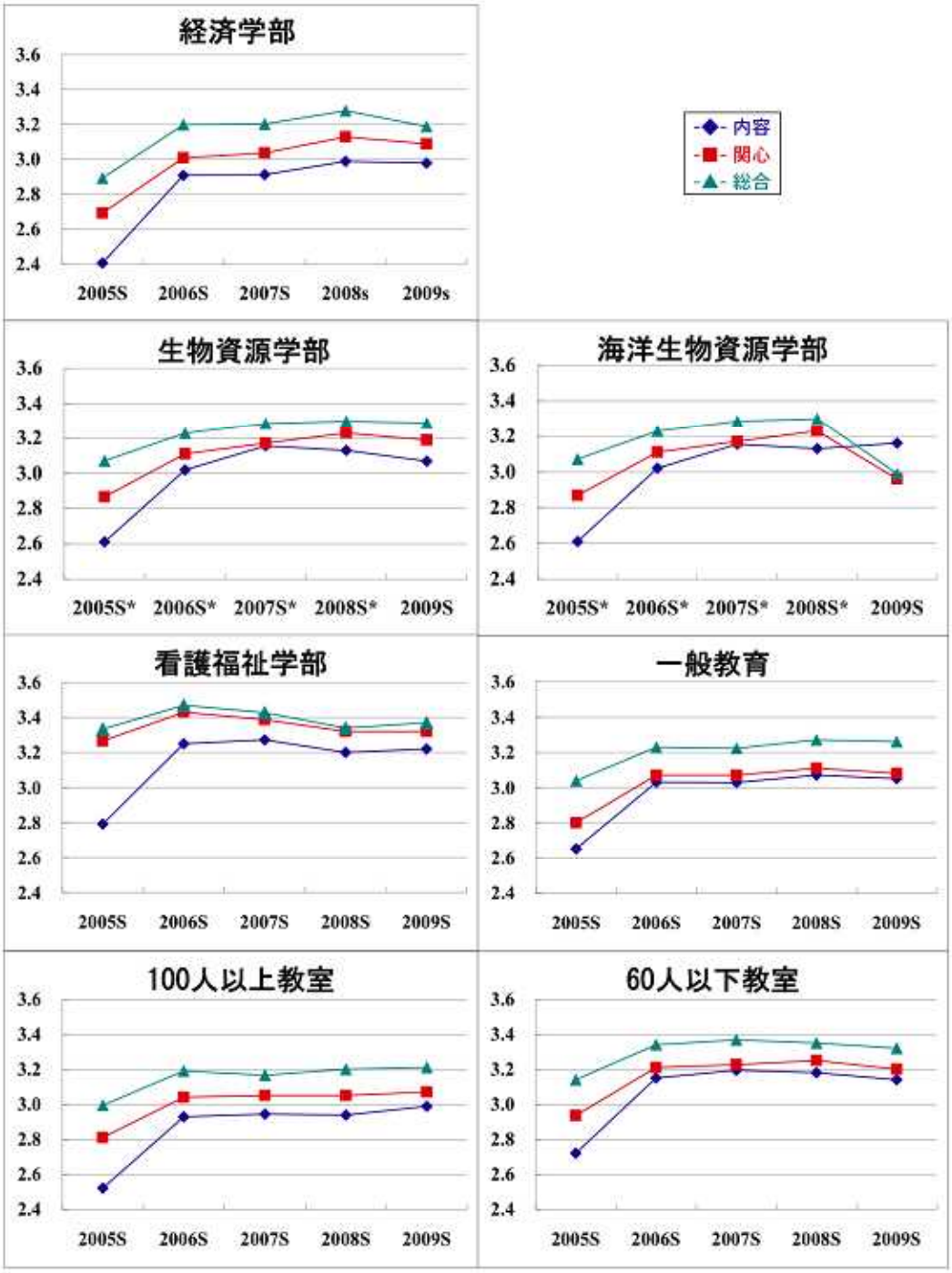


図３　重要項目の経年特性（前期）

（注）
・「総合(評価)」は授業の質，「内容(が理解できた)」は学生の満足度や学力，「関心(が高まった)」は，教師と学生双方の努力，に各々関係していると考えている．
・軸の数値 2005S の S は春学期（前期）を，次頁の F は秋学期（後期）を意味する．
・2005 年前期（2005S）の内容（を理解できたか）が特に低いのは，選択肢の違いによるところが大きいと思われる．2005 年前期の選択肢が「ほとんど理解できなかった」，「かなり理解できなかった」，「おおむね理解できた」，「ほとんど理解できた」であったのに対し，2005 年後期以降の選択肢は，「理解できなかった」，「あまり理解できなかった」，「ある程度理解できた」，「理解できた」である．

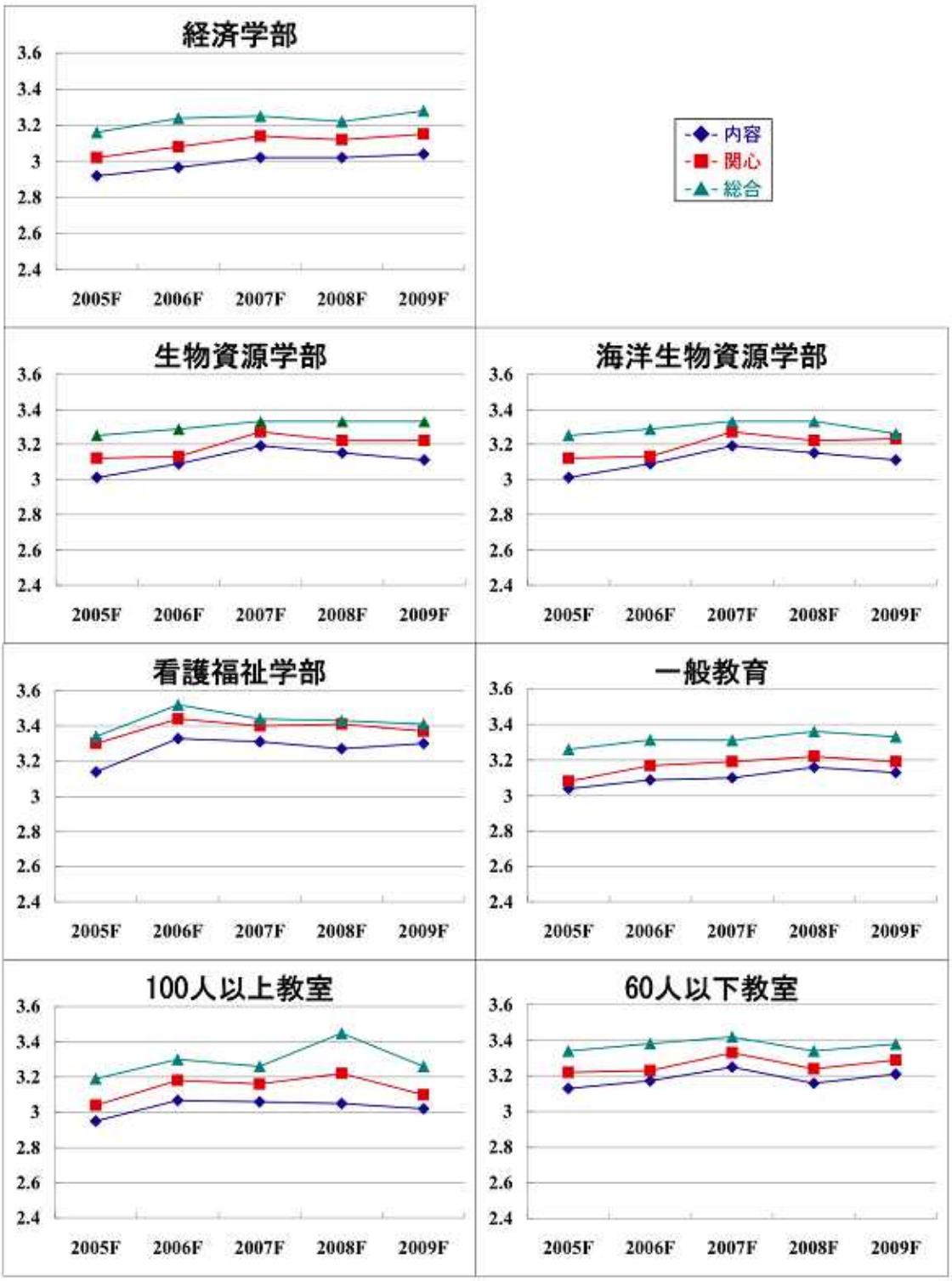


図４　重要項目の経年特性（後期）

3.2 授業公開と研修

本学における授業公開は2004年度後期に全学的に開始され，2007年度から各部局の特徴や状況を尊重して部局毎に実施されるようになった．公開を実施した教員あるいは参観した教員からは授業公開が役だったという評価を得ている．部局によっては授業公開はやり

尽くしたので，もう必要がないとの意見が出始めており，その実施方法についても次の段階を模索すべき時期に来ていることは否めない．しかし実際に授業公開に参加している教員は部局によって程度の差はあるが非常に偏っており，教員の世代交代も進んでいることを考慮すると，持続して実施していくことは絶対に必要である．

授業評価の場合と同様に，授業公開についても結果がきちんと生かされているか否かの検証が不十分であるとの批判がある．これについても，結果を生かすか否かは教員個人の努力にかかっているのは明白である．少なくとも学習支援チームは各教員が授業公開や授業評価結果を具体的にどのように生かしているかをお互いに共有できる場を提供していく必要性があると考える．

本年度の研修，特に学外研修は不活発であった．FD 研修に参加することは意識改革の上で非常に効果的ではあるので，なるべく多くの人に参加してもらう努力が必要である．本年度，学術教養センターが実施した「導入ゼミの改善に向けた懇談会」は学部教員も加わって開催され，学部間の意識の違いなども明らかとなり非常に有意義であった．

おわりに

2002年度に本学のFD事業が試行的にスタートし，2005年度には軌道に乗り始めました．更に2006年度以降は部局の特性を生かしたFD事業が取り入れられ，部局独自の授業公開やFD研修が実施されるに至りました．これらの事業は当時のFD部会の委員の皆様，法人化後の教育学習支援チーム委員の皆様のご尽力によって達成されたことは言うまでもありません．

2009年度に菊沢先生からFD担当リーダを引き継がせていただきましたが，FDに関する見識のかけらもない私にいったい何が出来るのかもわからず，戸惑いの1年間であったように思います．チーム委員各位の絶大なご協力により何とか報告書をまとめることが出来て安堵しています．

1 年間 FD 担当リーダの仕事に携わって，ある FD 研修会で講師の先生が言っておられた「御神輿の法則」というのを思い出しております．「御神輿というのは２割：６割：２割です．一生懸命に担いでいるのは２割，担いでいるふりをしているのは６割，最後の２割は何をしているかというとぶら下がっています．いわゆる抵抗勢力です．最後の 2 割にエネルギーを注ぐと気分も滅入りますし楽しくないので, 最初の２割, 本当に happy で friendly で nice people の２割の人と一緒に，残りのぶらさがっている６割の方を引っ張っていくというのが多分戦略ではないかというふうに思っています.」

本学の教育学習支援チームの活動も如何に楽しくやれるか，そして本学の先生方を如何に上手に巻き込んでいくかが最大の課題のように思います．

教育学習支援チーム FD 担当リーダ　本田　和正

ファカルティ・ディベロップメント報告書 2009

発 行 年 月　2010 年 3 月

編集・発行　福井県立大学教育学習支援チーム